

平成30年第4回那須烏山市議会9月定例会（第5日）

平成30年9月10日（月）

開議 午前10時00分

散会 午後 4時30分

◎出席議員（17名）

1番	青木敏久	2番	興野一美
3番	堀江清一	4番	荒井浩二
5番	福田長弘	6番	村上進一
7番	矢板清枝	8番	滝口貴史
9番	小堀道和	10番	相馬正典
11番	田島信二	12番	渋井由放
13番	久保居光一郎	14番	沼田邦彦
15番	中山五男	16番	高田悦男
17番	平塚英教		

◎欠席議員（なし）

◎説明のため出席した者の職氏名

市長	川俣純子
副市長	國井豊
教育長	田代和義
会計管理者兼会計課長	滝田勝幸
総合政策課長	石川浩
まちづくり課長	佐藤博樹
総務課長	福田守
税務課長	水上和明
市民課長	佐藤加代子
福祉事務所長兼健康福祉課長	稲葉節子
こども課長	神野久志
農政課長	菊池義夫
商工観光課長	小原沢一幸
環境課長	小林貞大

都市建設課長
上下水道課長
学校教育課長
生涯学習課長
文化振興課長
代表監査委員

小田倉 浩
佐藤 光明
岩附 利克
柳田 啓之
糸井 美智子
瀧田 晴夫

◎事務局職員出席者

事務局長
書記
書記

大谷 啓夫
菊地 静夫
藤田 真弓

○議事日程

日程 第 1 認定第1号～認定第9号 那須烏山市決算の認定について

※質疑～委員会付託

○本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

[午前10時00分開議]

○議長（沼田邦彦） おはようございます。傍聴席の皆様方には、早朝よりお集まりいただきましてありがとうございます。

ただいま出席している議員は17名です。定足数に達しておりますので、ただいまから会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

◎日程第1 認定第1号～認定第9号 那須烏山市決算の認定について

○議長（沼田邦彦） 日程第1 認定第1号 平成29年度那須烏山市一般会計決算の認定についてから、認定第9号 平成29年度那須烏山市水道事業会計決算の認定についてまで、認定案9件を一括して議題といたします。

本件については、去る9月4日の本会議において提案理由の説明及び監査委員による決算審査結果の報告が終了しております。

直ちに質疑に入りますが、所管の委員会に関する事項は委員会審査において質疑されるようお願いいたします。なお、総括質疑の持ち時間を、質問と答弁を合わせおおむね30分としておりますことから、持ち時間を超えた場合は質疑の終了を求めます。質疑、答弁は簡潔明瞭にされますよう、この際、申し添えます。

それでは、これより質疑に入ります。

1番青木議員。

○1番（青木敏久） 私からは6点についてお尋ね申し上げます。

1番、行財政報告書31ページ、広報活動について伺います。

「ツイッター、フェイスブックは災害情報や行政情報、イベント、旬の情報を発信する」と活動内容を明記しております。また、ツイッターのフォロワーは4,511人となっております。ツイッターの情報発信の実施状況について伺います。

2、決算書45ページ、行財政報告書51、57ページ、総務管理費について2つお伺いします。

まず、ページ51、下から6行目、「対症療法」を「対処療法」と記載されておりますが、誤記であると思うんですが、御確認願います。

1つ目、メンタルヘルス研修業務、メンタルカウンセリング業務、ストレスチェック分析業務、ストレスチェック研修業務、4件で146万186円計上されております。業務内容について伺います。

2つ目、行財政報告書には「臨時カウンセリング等の対症療法を余儀なくされています。今後は対策を前進すべく、研修等の原因療法に取り組む」とあります。臨時カウンセリング等の対症療法から、研修等の原因療法に取り組むとのことですが、研修のほか何に取り組むのか伺います。

3、行財政報告書177、182及び189ページ、商工振興と環境について伺います。

補助金、企業立地奨励金として1億3,746万1,000円が計上されており、平成29年度の奨励金交付は33事業所になり、うち30件、奨励金の9割以上が太陽光発電に対する奨励でありました。また、「太陽光発電設備等の固定資産税の増額により、市税が4.8%増になった」と記載されております。一方、「市内各所の遊休地や林地に対する民間によるメガソーラー進出が多数計画されており、再生可能エネルギーの普及・拡大が急速に進んでいますが、秩序ある実施が求められます」と記載されています。

補助金として奨励金を交付する一方、秩序ある実施が求められるとして、整合性がとれていないようにも思えます。秩序ある実施とは何か、「求める」でなく「求められる」とは何か、伺います。

4、行財政報告書297ページ、水道事業の有形固定資産について伺います。七合地区谷浅見地内に浄水場及び配水池がございます。老朽化は著しく、既に役割は終えたように見受けられますが、両施設の取り扱い方針について伺います。

5、決算書406ページ、出資による権利について伺います。財団法人那須烏山市農業公社出資金と記載されておりますが、財団法人など公益法人に拠出する場合の支払いは出捐金と記載されるのが正しいと思われまます。出資金と記載されている点について伺います。

6、決算書408、435ページ、企業債について伺います。

借換債として2件、合計8,196万4,142円が計上されています。利率は1.402%、1.320%であります。金利負担を考慮すると繰上償還は1つの方策であると思えます。庁舎整備等にはある程度の期間を要することから、原資として庁舎整備基金を充当してはどうかと考えますが、いかがでしょうか、伺います。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） まず、行財政報告書31ページの広報関係についてお答え申し上げます。

ツイッター、フェイスブック等につきましては、情報提供につきましては行事等や市の予定等があった場合、随時発信しておりますので、定期的にというわけではございませんで、随時、情報があれば発信するようにしております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） それでは、私のほうで、ストレスチェック、メンタルヘルス関係にお答えしたいと思います。

まず、決算上のメンタルヘルスの研修でございますが、こちらにつきましては、新採用職員に対しての研修でございます。それと、メンタルヘルスのカウンセリング業務でございますが、これはいろいろ体調不調等、そういう方とか気になる方がいらっしゃった場合のカウンセリングでございます。大体、月2回で延べ94人、カウンセリングを受けているところでございます。

それとストレスチェックにつきましては、法的に事業所としてストレスチェックをやらなければならないということになっておりますので、それについての実施、解析業務でございます。それにつきまして、三役及び課長等にこの分析結果を話して、市の状況を説明というのがストレスチェックの研修業務でございます。

それと対症療法、こちらにつきましては先ほど言ったカウンセリング、これが主なものでございます。原因療法となりますと、人的に、もともとコミュニケーション能力が難しい方がいらっしゃるといのが結構この今までのストレスチェック等に出てきたものですから、その人を対象にコミュニケーションの育成研修を行ったところでございます。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸） 私のほうからは、商工振興の企業立地奨励金の件についてお答えします。

企業立地奨励金、平成29年度、33件交付したうち30件が太陽光関連の事業所となっております。太陽光関連につきましては、平成29年度に既に認定されて、新規の受け付けは終了という形にしておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（沼田邦彦） 小林環境課長。

○環境課長（小林貞大） 行財政報告書189ページに書いてあります「再生エネルギーの普及活動が急速に進んでいますが、秩序ある」という形なんです。最初はとちぎサンシャインプロジェクトというものを県のほうで推進しておりまして、そちらのほうに乗りまして、市のほうでも大いに再生エネルギーとして太陽光発電をつくっていただいきたいという方向でプロジェクトも創設しておりました。

ただし、県のほうでもその開発に対する意義というか、なかなか開発が無理やりという言い方は変なんです。森林を伐採してつくってしまうということに対して、環境破壊になるんじゃないかというふうな考え方もあったものですから、だんだん減らしていくような方向、みんながもっと認め合えるような開発にしていこうというような意味で、このような表現を使いま

した。

○議長（沼田邦彦） 佐藤上下水道課長。

○上下水道課長（佐藤光明） ただいまの谷浅見地内にあります水道施設の今後の取り扱いについてということで、御質問いただきました。

市として現在、簡易水道の水道事業への統合を進めておりまして、平成30年度末、来年の3月までに統合ということで計画をしております。その後、この2の施設につきましては、廃止を含めまして検討してまいりたいと思っておりますので、御理解をお願いいたします。

もう一点、決算書の435ページ、借換債につきまして、庁舎整備基金を充当してはどうかという御提案でございましたが、こちらにつきましては水道事業の借換債でございます。水道事業としましては、平成29年度に1件の繰上返済を実行いたしました。ただいま水道の漏水関係、大変多いものですから、そちらの工事のほうも順次、進めておりますので、工事とこの返済につきましてよく検討して対応してまいりたいと思っておりますので、できれば返したいという考えはありますが、御理解のほうをよろしくお願いいたします。

○議長（沼田邦彦） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） 御質問の決算書406ページ、出資による権利のうち、那須烏山市農業公社の出資金について、出捐金ではないかという御質問でございます。

農業公社は平成7年に旧南那須町で町が2,200万円、農協が800万円ということで3,000万円が出資という形になっております。当時、出捐金……、私は詳しい意味は回答できないんですが、出捐金は寄附金という形なのかなと。公社については、公益事業を行っている関係もありますから、その出資金は公益的財産額ということで、取り扱いは当時、公社のほうの意思決定で出資金という形に取り扱ったのではないかなと記憶しているのですが、現在は法人も当時、財団法人から一般財団法人という法人格も変わっておりますが、この辺、当時の部分ですので、ちょっと明確に回答はできませんが、当初から出資金という形で取り扱いしております。

○議長（沼田邦彦） 1番青木議員。

○1番（青木敏久） 再質問させていただきます。

まず1番目、ツイッターですが、本日8時、確認しましたところ、フォロワー数は4,560人でした。ツイッターは電話が使用できなくなった東日本大震災をきっかけに拡大したわけですが、安倍総理大臣も情報発信のツールとして大変活用しております。台風21号の災害情報においても積極的に活用されております。また、テニスの全米オープン女子シングルス決勝で大坂なおみ選手が優勝したときのことを受けて、みずからのツイッターに「全米オープンの優勝おめでとうございます。四大大会での日本選手初のチャンピオン。この

困難な時にあって、日本中に、元気と感動をありがとう」と祝福のメッセージを書き込んでおります。

本市においては、調べますと8月20日より今日まで49のツイートがあり、うち48ツイートがホームページ更新情報でありました。4,560人のフォロワーがありながら、画竜点睛を欠くというような結果になっていると思われまます。創意工夫を凝らし、積極的な活動を求めますが、どう改善に取り組まれるか伺いたいと思ひます。

2つ目、対症療法について。対症療法は応急処置、原因療法は解決策と捉えれば、先ほど伺ったようにコミュニケーション能力、これを育成研修、これで果たして原因療法と言えるのかどうか。これが適正な原因療法の治療に匹敵するかどうか、改めて所見を伺ひます。

あと太陽光についてですが、太陽光の場合には先ほどお話し伺ったとおり国の環境アセスメントの対象ではなく、また、建築基準法にも該当しないために秩序ある実施がなされない場合に、幾つかの私も懸念するところがございます。1つは、緑豊かな景観が変貌すること、CO₂削減のはずの再生エネルギーが山林の伐採でCO₂を吸収する樹木を切り倒してしまうこと、除草には人件費削減を勘案して強い農薬を使用し、その結果、土壌や地下水が汚染されること、樹木伐採によって保水力が低下し、土砂の流出を招くこと、大規模災害時にパネルが落下し、感電や発電による出火の危険性、重金属流出による土壌汚染のリスクがあることを十分考慮の上、秩序ある実効性のある実施を求めたいと思ひますが、所見を伺ひたいと思ひます。

また、谷浅見地内の配水池においては、隣接して神社があり、例大祭には奉納相撲が行われます。また、里山林事業については谷浅見里山を愛する会により河津桜等の植樹も行われ、地元住民の憩いの場となるよう整備が進んでおります。

以上のことから迅速な対応を求めるものでありますが、計画の中にいつまでという記述があれば、目標を設定していただきたいと思ひます。

5番、6番については了解いたしました。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） 広報のやり方というか、魅力度のアップの仕方ということになると思ひます。行財政報告書31ページに、メールマガジンやツイッター、またホームページ等のいろいろな電子媒体等が載せてありますが、基本はやっぱり魅力ある情報発信だと思ひますし、いろんな情報発信のツールがあつていいのかなとは思ひますが、それが一般市民の方がそういうツールがあること自体を知らないというのもまた1つ現状にあるのかなと思ひますので、そういうツールの発信等を含めて、魅力度アップには努めていきたいと。また、見やすい広報というんですかね、そのように努めていきたいと思ひます。

○議長（沼田邦彦） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） 今まで心の不調者については、カウンセリングを主にやってきたところですが、そのカウンセリングをずっと今までやった中で、どうしてもコミュニケーション能力に欠ける職員というか、欠けるとまでいかないんですけど、ちょっと苦手な職員、そういう方がどうしても職場内でコミュニケーションが図れずに心身的にストレスを多く持ってしまうというような状況が見られたものですから、まずはこのコミュニケーション能力を高める方向で解決ができないものかということで、今年度からこういったものを始めることとしたわけでございます。これが適正かどうかというのは、1つの処置として今回、始めたこととさせていただきます。

○議長（沼田邦彦） 小林環境課長。

○環境課長（小林貞大） 太陽光発電の関係の懸念の御質問だと思います。確かに太陽光パネルをつくりまして20年後にはフィードインタリフ、固定買い取りがなくなると。そのものの処分もどうするんだというのもまだ実際には確定していない状況でございます。

議員御指摘の除草剤関係、これにつきましては、開発行為のときに地元との協議で使う、使わない等のこともあるかと思っておりますので、一概に除草剤を全て使っているということではないと思っておりますが、除草剤も実際どういったものを使っているか、以前、ゴルフ場ですと年間そういったものを報告する義務があったのですが、今回、太陽光発電としてはないものですから、下流域の水質が何か変わった場合等で注視していくような方針しか今のところとはとれないのではないかと考えております。

○議長（沼田邦彦） 佐藤上下水道課長。

○上下水道課長（佐藤光明） ただいまの、時限を決められるのであればそれを示してほしいという質問でございますが、申しわけございませんが、期限につきましてはまだ決定しておりませんので、決定次第、お示ししたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（沼田邦彦） 3回目になりますけれども。

○1番（青木敏久） 質問を終わります。

○議長（沼田邦彦） 2番興野議員。

○2番（興野一美） 私からは、6項目について伺います。

まず、行財政報告の112ページ。「健康診査については、若年層の受診者の増加を目的にインターネット予約を試行的に実施した」とありますが、何件くらいの予約があったのか、また、何%アップしたのか伺います。

次に2番目、行財政報告書の128ページ。骨粗しょう症の状況は、40歳以上、5歳単位で検査だと思っておりますが、年齢ごとの人数はわかるでしょうか。伺います。

次に3番目、決算書の143ページ。用地買収未登記部分の分筆登記10万円とありますが、

どのような内容なのか、また、今後このような事例は考えられるのか、また、過去にもあったのか伺います。

次に、イノシシなんですけども、平塚先輩議員のテリトリーだと聞いていますけども、地元興野にも被害が出てきましたので、先に質問させていただきます。決算書の147ページ、149ページ、イノシシ捕獲促進強化事業で、報償金、有害鳥獣捕獲強化事業293万9,000円とあります。平成29年度は181頭とありますが、1頭当たりの報償金は幾らか、また、那珂川町の処理施設に何頭ぐらい搬入したか、また、買い上げ価格についてはわかる範囲内で答えてもらえれば結構です。それとイノシシ捕獲業務で、巻狩りがありますが、烏山地区44万1,300円、南那須地区が35万650円とあります。この猟だけでの捕獲は何頭か伺いたいと思います。

次に5番目、決算書の153ページ。プレミアム商品券について伺います。短時間で完売してしまうほど好評だと聞いています。この商品券は使い回しができるのか伺います。また、換金に際してどこの事業所、商店がどのくらいの金額か把握しているのでしょうか、伺います。

最後に、決算書の165ページ、169ページに道路愛護会、河川愛護会とありますけども、ともに208万円ずつ補助金を出していますが、私、わかりませんので、どういった組織か、また、使い道を伺います。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 稲葉健康福祉課長。

○健康福祉課長（稲葉節子） 健康福祉課のほうからは、若者を対象にしたウェブ予約についての件数とパーセントということでございますけれども、平成29年度は試行的に実施しておりまして、未受診者を対象にした後半の部分で呼びかけております。平成30年度からが本格稼働ということになっておりますので、件数、パーセントについてはちょっと出ない状況ではありますけれども、やはりウェブ予約をすることによって、若い人、それから今まで健診を受けなかった方が受診されているという状況は見られております。

それから2点目の、骨粗しょう症の年齢別については、ちょっと資料を持ち合わせておりませんので、後で報告させていただきたいと思います。

○議長（沼田邦彦） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） 決算書の143ページでございます。用地買収未登記部分の分筆登記という御質問についてお答えいたします。

この案件は、平成7年度の県単土地改良事業の農道整備事業において、買収未登記地の分割登記がございましたので、その登記料の委託を市のほうで行ったもので、10万円でございます。三箇地区だったんですが、これが1件ございました。

その前までの過去はなかったんですが、今年度、平成30年度に入って1件、今そういう案件が出てきている状況でございます。

それから、147ページから149ページについてのイノシシ関係でございますが、イノシシの捕獲報償金でございますが、この293万9,000円でございますが、今のほうから8,000円、1頭当たり捕獲するといただきます。さらに市のほうで6,000円を上乗せて、1万4,000円と。これが大人のイノシシです。子供のイノシシは若干、金額が低いんですが、昨年度実績で181頭ということでございました。

さらに支払いについては年度をまたいでまいりますので、平成29年度に28年度の繰り越し分も支払っているという状況でございます、合計では293万9,000円という合計でございます。

ちなみに、子供のイノシシは5頭程度でしたけども、1,000円の報償が出ます。子供は1,000円です。

それから、149ページに移っての那珂川町の加工施設関係の、買い上げ関係はちょっと金額的に差があるということで、いろいろ規制は那珂川町の加工施設のほうからあるんですが、実際に何頭行っているかは、ちょっと手持ちはありませんが、なかなか重量とか、鉄砲で撃つたものは受け入れないとか、いろんな規制があって、頭数的には本当に数頭しか那珂川町の加工施設のほうには行っていないと御報告はありますが、ちょっと具体的に何頭というのは、後で個別にお答えしたいと思います。

それから、巻狩り関係でございますが、鳥山分会、それから南那須分会ということで年に2回、実施しております。ここに記載のとおり金額で委託料として行っておりますが、これから秋の巻狩り、それから来春、春の巻狩りということで年に2回、実施しております。この頭数でございますが、実際には巻狩りは捕獲というよりも追い込みになりますから、巻狩りで何頭とったという部分では、捕獲頭数には実績上がらないんですが、年間を通して猟友会が捕獲対策を行っておりますので、そちらでの実績が昨年度181頭であったという報告でございます。よろしいでしょうか。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸） 私のほうからは、決算書153ページ、プレミアム商品券についてお答えします。

こちらの商品券については、使い回しはできないものとなっております。また、どこの商店で幾ら使ったかというのは、私どもで持っている資料としましては、個別の店舗ではないんですが、業種別に家電店とか雑貨店とか衣料品店、そういった別には集計っておりますので、わかるようにはなっております。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） 私のほうは、決算書の165ページ、道路愛護会補助金208万円、並びに169ページの河川愛護会補助金208万円、この金額は、道路愛護会と河川愛護会という組織がございまして、こちらのほうに補助金として算出している額でございます。こちらは世帯数に決められた単価で算出した金額となっております。

こちらを愛護会のほうに支出しまして、今度、愛護会として、栃木県から補助金を受けまして、私どもの市の補助金と合わせて、各愛護会……、愛護会というのは各自治会の中に組織していただいております、その愛護会の作業の実績に基づきまして支出していますが、その金額は本当に、何というんですかね、お茶代程度という微々たるものなんですけど、こちらのほうで皆さんに毎年やっていただいているという費用でございます。

○議長（沼田邦彦） 2番興野議員。

○2番（興野一美） それでは、再度伺います。

まず、健康福祉課長に伺います。インターネットの予約、これはどのような周知の仕方をしているのでしょうか、伺います。

また、骨粗しょう症のことなんですけども、カルシウムが原因だと思うんですよね。カルシウムは骨に貯蓄させる貯金のようなものなので、要医療になってからはなかなか間に合わないんじゃないかなと思っています。私は人間のことはわからないんですけども、牛のことは多少わかるつもりでいますが、カルシウムってやっぱり乳牛にとっても本当に大切なんですよね。牛乳、あれだけ生産するということは、カルシウムが相当放出されるので、やっぱり骨にカルシウムが蓄積されないと、お産していきなり40キロも50キロも出すと、やっぱり牛によっては低カルシウム血症になって起立不能になんかになってしまう場合がたまにありますので、やっぱり若いうちから、小学校の時代から食育としてしっかり教え込まないと、大人になってからでは間に合わないということが大きいと思います。

それで、ただ検査するだけじゃなくて、やっぱり若いうちからの教育、指導が大切だと思うんですけども、これについても伺います。

続きまして、農政課長に伺います。狩猟免許のことなんですけども、職員では狩猟免許、何人くらい持っているか、また今後、今、狩猟をやる人、高齢化でだんだん減っているということなので、職員で対応できないか、また、職員も今後、免許をとらせる方向性はあるのか伺います。

あと商工観光課長にもう一度。ある人に聞いたんですけども、プレミアム商品券は使い回しができる。商品券自体は使い回ししてもわからないんじゃないかと思うんですけども、その

点、伺います。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 稲葉健康福祉課長。

○健康福祉課長（稲葉節子） それでは、私のほうからは、まず健診のウェブ予約の周知方法ということでしたけれども、周知方法は、ことし新たに始めましたので、お知らせ版、それから自治会には回覧板、それからホームページ等でお知らせしているところです。それから、対象となる方には個別に通知のほうも行っております。

あと、骨粗しょう症についてですけれども、先に、先ほど年齢別の受診者数がわかればということでしたので、そちらのほうを報告いたします。これは節目で受けておりますので、40歳が14名、45歳が7名、50歳が25名、55歳が18名、60歳が33名、65歳が38名、70歳が56名ということで、191名ということになります。

議員おっしゃるように、カルシウムをとることが大切で、若いころからそれを身につけることが大切だということで、本当に人間よりも牛のほうが顕著にわかるんだという話があったところですが、高齢化進んでおりますので、骨粗しょう症も那須烏山市にとっては深刻な問題になっております。ですので、予防を図るということでこの検診をやっておりまして、その検診で病院にかかる必要があるとか要指導の方には、食事の指導、それから運動のあたり、それからお日様を浴びることということあたりも指導しております。

それから、子供さんの食育のことについてですけれども、食育については、農政課、それからこども課、健康福祉課でそれぞれに話し合っ、て、カルシウムをとること、それから今言ったような運動をすること、カルシウムアップの食事を食べること等について、栄養士を交えて取り組んでおります。

○議長（沼田邦彦） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） イノシシの狩猟免許の取得でございますが、昨年度6名の方に補助金として狩猟免許の補助を交付いたしました。職員について、こういった狩猟にかかわれないかという御質問でございますが、現在、過去もおりましたが、これから1名、受けたいということで今、申請している者が職員の中にもおります。

ただ、それを強要することも難しいとは思いますが、今、実施隊が昨年度、設置いたしました。その隊長は私です。私が率先して現場に出るわけではありませんが、やはり各そういったイノシシの出没について、迅速に対応を今年度からできているのではないのかなとは思いますが、なかなか捕獲については、1年置きのやはり周期があるようですから、なかなかそういった件については課内でも話し合っ、てみたいと思います。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸） プレミアム商品券につきまして、実際のところ使い回しをしてもわからないと思うということなのですが、基本は使用された店舗で換金するような形をとっておりますので、そういったもので進んでいるものと理解しております。

今後、商工会と現状について確認をしまして、対応策について検討してまいりたいと考えます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 2番興野議員。

○2番（興野一美） 商工観光課長に伺います。

商店というか、プレミアム商品券、受け取った事業所なんかで聞くと、やっぱり使い回しができると。自分のところで、お店じゃなくてほかの業種だったら買い物に行くときにスーパーへ行って、その商品券を使うということは聞いています。ということは、極端な話、大手スーパーへ極集中になっちゃう可能性はありますよね。ですから、使い回しできないような印刷の仕方とかそういう方法もあるのではないかなと思います。これについて伺います。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸） 使い回しができないような方法を商工会と協議していきたいと考えます。

○2番（興野一美） 了解しました。以上で終わります。

○議長（沼田邦彦） 3番堀江議員。

○3番（堀江清一） 私は農業振興という形で、行財政報告書のほうで主に質問させていただきます。ページ数でいうと157、ページを追ってわかりやすく説明させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

農業振興という項目でありますけども、ちょっとその中で、米の生産調整農家への助成金というところにあるんですけども、米の直接支払交付金、畑作物の直接支払交付金、水田活用直接支払交付金というふうに項目がありますが、金額が4億5,000万何がしという結構大きい金額になるんですけども、直接支払交付金という中身をよく説明していただければと思います。例えば減反費用ですよというのか、一番最後の水田活用の直接支払交付金、これは例えばどういうことなのかとか、そういうことをまず質問したいと思います。

続きまして、行財政報告書の、ページ数でいうと201ページ、202ページなのですが、201ページの道路保全事業の一番下にその他4件、それと202ページの道路整備事業の合併特例債事業のその他1件、この中身がわからないので、ぜひわかるようにお願いしたいなと思います。

それと、行財政報告書の213ページ、烏山高校通学補助交付事業となっております。金額でいうと1,200万何がしと。人数でいうと173名に対してですが、全校数はもっとおりますよね。この補助の内容というのは、どういうところに補助されているのかお聞きしたいと思います。

それと、決算書のほうに移ります。ページ数でいうと165ページ、上のほうなんですけども、ちょっと項目とかあれなんですけど、八溝大橋・大松橋・富谷橋維持管理費となっております。500万円からのお金がかかっておりますが、どのような管理をされているのか。それで、橋を管理しているところを余り自分、見たことないので、どのような作業をされているのかお伺いしたいと思います。

よろしく申し上げます。

○議長（沼田邦彦） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） 行財政報告の157ページ、生産調整の件でございます。この表の下にあります米生産調整農家等への助成金総額の以下の内訳について、簡単に御説明申し上げます。

1段目の米の直接支払交付金でございますが、これは平成29年度で終了になった事業でございます。米の生産数量の目標に従って生産した販売農家または集落営農の組合、そういった方々が対象になりますが、1反歩あたり7,500円、国からいただいているものでございます。

それから、2段目の畑作物の直接支払交付金でございます。これは現在も継続してございますが、水田は言葉ではゲタ対策、ナラシ対策というのがありまして、そのゲタになる部分なんですけども、後で細かいパンフレットを渡したいとは思いますが、簡単に言うと、やはり認定農業者という認定されている農家とか集落営農、そういった方々が対象になりますが、主に転作作物、麦、大豆、飼料作物、そういったものの交付の対象になる作物でございます。そういったものを作付した場合に、いろいろ上限はありますが、1反歩あたり2万円というふうな交付金がいただけます。

さらに、出荷した際の取れ高によって、生産量に基づいても支払われるという2段階構えでございます。

3つ目の、水田活用直接支払交付金でございますが、やはり国のほうで戦略作物というのがございます。例えば麦、大豆、飼料作物に加えて、WCS用稲とか加工用米とかそういったものが1反歩あたり3万5,000円とか、WCSであると1反歩8万円とか、そういった直接交付金が支払われているという内容でございます。

○議長（沼田邦彦） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） それでは、私のほうからは行財政報告書の201ページ、202ページですね。

まず、201ページのその他4件ということなのですが、こちらは上のほうを見ていただくとわかるんですが、工事の発注工事の一覧表が出ております。それで、紙面の都合上、130万円以下の小規模工事は一件一件記載しないで、まとめてということで130万円以下の工事、こちらは区画線、ライン引きとかそういった小規模の工事が4件で、312万1,200円という表現をさせていただきました。

次のページの202ページの下のほうのその他1件、こちらは業務委託で50万円以下の小規模な業務委託ということで、その他という表示をさせていただきました。

あと、決算書の165ページ、上のほうから、八溝大橋・大松橋・富谷橋維持管理費の500万何がしという金額なのですが、こちらは北から八溝大橋・大松橋・富谷橋という、那珂川町と私どもの市にかかっている橋の管理者というのは、道路管理者というのは2人おけないものですから、那珂川町が管理者になっておりまして、その負担金としてお支払いしている金額です。ただこれ、ちょっと大きいというんですが、こちら、昨年度、大松橋の橋梁補修を那珂川町のほうで交付金として補修をしました。その補修の内容は、橋面の舗装の打ち替えなんですけど、そちらの金額がほとんどでございます。

それと、通常はその3つの橋に橋梁の照明がありまして、そちらの照明の負担金ということで、大体そちらが20万円ぐらいですね。その残りが大松橋の橋梁補修にかかった2分の1の負担金という内容でございます。ですから、この年はちょっと突出しておりますので、よろしくをお願いします。

○議長（沼田邦彦） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） それでは、行財政報告書の213ページ、烏山高校通学補助交付事業について申し上げたいと思います。

この事業につきましては、烏山高校の毎年の募集定数200人でございますが、これが200人の定数を割ってきたというようなことで、烏山高等学校の存続をする……、地元の高校ということでございますので、存続のために、公共交通機関を利用して通学する生徒に対しまして、月額5,000円を超えた金額について補助をしているものでございます。というようなことで、平成29年度については173名に交付したというものでございます。

○議長（沼田邦彦） 3番堀江議員。

○3番（堀江清一） 農業の振興のほうでなんですけど、平成28年度4億3,000万円だったのが、29年度4億5,000万円になっております。戸数でいうと、参加者と団体戸数でいうと50戸ほど減っておるにもかかわらず、金額が上がってしまっている。

それと、米の直接支払交付金ですか、これは平成29年度で終了ということになるんですが、そのかわりの補償というか、そのものというのはひょっとして何かあるのかなというところをちょっとお伺いしたいなと思います。

それと、道路のほうなんですけども、その他というのは金額で表示しないというような項目がありますが、可能ならば表示することはできますでしょうか。お伺いします。

それと、通学補助に関してですが、対象者、要するに補助する対象者というのは、市内の生徒さんよりも多分、金額が大きくなるということは、市外の方が多いいのではないかと思います。例えばですけど、高校に希望する方がおられないということであれば、その高校に魅力がないと思われるので、ひょっとしたら高校の魅力を上げるほうが、何というんでしょう、高校希望者というかそういうのはふえるのではないかと思います。だからそのお金をそちらに使うことはできないのでしょうか。ちょっとお伺いします。

それと、さっきの橋のことなんですけど、これは管理は全部、那珂川町に委託しているということでもよろしいでしょうか。であれば、その橋の件に関しては了解しました。

じゃあ、以上よろしくお伺いします。

○議長（沼田邦彦） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） ただいまの質問の、戸数が減少しているのに金額が増額しているという部分でございますが、やはり戸別農家が大規模農家に集約が進んでいるというふうに御理解ください。

2つ目の、この交付金は1年で完結いたしますけども、受け皿は全て農業再生協議会ですから、市のほうには一切、交付金は通ったりはしないんですが、1年限りの交付金だと。それで、かわりの補償という部分は、今現在、国が進めている部分と、それから市が単独で転作の奨励金を出しておりますWC Sの補助、さらには園芸の露地野菜への補助、こういったものがここ数年、創設しておりますので、合わせながら農家の支援に当たっていきたくて思っております。

○議長（沼田邦彦） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） その他の表示なんですけど、平成30年度以降、ちょっと検討させてください。

あと、橋梁につきましては、那珂川町が道路管理者となっておりますので、私どもはその負担金として2分の1を支払うという協定になっております。

○議長（沼田邦彦） 田代教育長。

○教育長（田代和義） 烏山高校の通学補助の件ですが、高校の魅力がないのではないかとというようなお話ですが、校長以下、一生懸命頑張っているというようには思っております。

烏山学を開講するとか、いろんな形でまちに携わる、または烏山沿線を盛り上げるというよ

うな協議会もごさいますが、そういった中で、高根沢高校の生徒とともに、熟年者というか、修学旅行みたいなのを大人の方に提案したりそういったことでいろいろ学校は独自に頑張っていると思われま。

あと、通学補助については、去年は5,000円以上、ことしは予算がちょっと多くなってきていますので、7,500円以上という基準を少しずつ上げていくということで対応して、次年度の決算のときは額がかなり減っていくのだろうと予想されております。

あと、魅力云々ということに、高校入試ですので、以前、高校の校長をやっていた者としては、やはり各学校、死に物狂いで実際にはやっているわけです。正直なところ。ただ、パイが決まっているパイを奪い合うということですので、やはり利便性とか、これまでの歴史とかいう中で、なかなか集まりづらいというところもあります。馬頭高校と烏山高校の定員は、那珂川町と那須烏山市の中学生の数をはるかに超えておりますので、よそから連れてこないことにはとても、全部入ったとしても定員は埋まらない。ただ、全部入らなくて、何割かの生徒は宇都宮、他地区へ行ってしまうと。那須烏山市の生徒の3割程度しか烏山高校に行っていないので、あと那珂川町から合わせて五、六割が他地区から呼んできて200ということで、かなりある意味では学校の努力、または我々の努力が報われている部分はあるんじゃないかと考えております。

○議長（沼田邦彦） 3番堀江議員。

○3番（堀江清一） おおむね了解いたしました。

最後に、これはちょっとさっき質問していないんですが、行財政報告書の230ページ、工事等というところで、南那須公民館のトイレ改修工事、工事概要のところですけど、「公民館トイレ全様式化」と書いてありますが、私の記憶では、太平洋の「洋」でよろしかったですか。ちょっと気になったものですから、それだけ質問させていただきます。

○議長（沼田邦彦） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 大変申しわけございません。おっしゃるとおりでございます。

○3番（堀江清一） 了解しました。以上で質問を終わります。

○議長（沼田邦彦） ここで、暫時休憩いたします。

休憩 午前10時57分

再開 午前11時05分

○議長（沼田邦彦） 休憩前に引き続き会議を開きます。

4番荒井議員。

○4番（荒井浩二） 4番、荒井です。今回はおおむね6項目の内容に関して、質問させて

いただきます。

1つ目が、決算報告書の45ページの2款総務費1項1目の一般管理費のほうの、先ほども質問のあったメンタルヘルスに関して、こちらのほうで実際に研修だったりその業務が任意なのか希望なのか、あるいは場合によっては職員の体調だったり見て、他薦といたしますか、人に勧められてというのもあると思うんですけども、そちらの割合、人数などについてもわかれば教えていただきたいのと、あと、49ページの文書費ですね。一般質問でも回答がありましたが、廃棄文書の処理業務に関して、こちらの金額の見積もりの根拠、例えば量で見積もっているのか、大体固定で算定されているものなのか。それとあと該当する文書の分類でしたりとか、あと昨今、文書管理が問題になっていますが、今後の対応に関して変更や検討している点などについてですね。

あと、次が決算報告書の53ページの、収納に関するもので、53ページと77ページのほうでそれぞれ内容、多少違うんですけども、ふるさと応援寄附金の代理収納システムだったりとか、あと賦課徴収費の利用システムの、コンビニ等で税金だったり固定資産税だったり軽自動車税の収納システムを使っているわけなんですけれども、そちらの全体の利用者数だったりとかパーセント、費用対効果についてお伺いしたいです。

あと、次にまた戻って55ページのこちらに防犯カメラレンタル料とあります。こちらのほうが行財政報告書にも記載がないようなんですけれども、内訳についてちょっとお伺いしたいのと、あと109ページ、民生費の3目の母子福祉費ですね。高等職業訓練促進給付金とあります。こちらは母子家庭だったりのお子さんが対象になるものだと思うんですけども、こちらの内容とか実績についてお伺いしたいです。

あと最後に179ページ、消防費の5目の災害対策費ですね。こちらの防災ミニ番組放送事業、こちらの中身についても教えてください。

よろしく申し上げます。

○議長（沼田邦彦） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） まず、メンタルヘルス関係では、一応、本人希望と、あとは上司等、あとは周りからの、ちょっとあの人どうなんだろうというような情報が入った場合、うちのほうから声かけ等で、詳しく本人希望が何人とかというのは、ちょっと申しわけございません、具体的なものは出ておりませんが、昨年度の実績については、25回やっておりまして、94名の方がカウンセリングのほうを受けております。

それと、文書廃棄のほうでございますが、こちらについては単価契約になっておりまして、単価、キロ当たり37円。それで実績として、7,525キロの廃棄となっております。

これは保存年数が経過したものを、簿冊等でいろいろ5年とか10年とかいろいろあるんで

すが、その保存年数が経過したものを市役所の構内において、機密文書の裁断機を持っている業者のほうで、そこで粉碎して、それを持っていってもらおうということでやっておりますので、文書がほかに漏れるということはないということでの廃棄をしております。

それとあと防犯カメラの内容でございますが、市の施設には今のところ35台、防犯カメラ設置しております、そのうち33台がレンタルでやっております。主なところにつきましては、烏山駅前の駐輪場、あとは緑地運動公園の駐車場、あとは烏山運動公園の駐車場、大桶運動公園の駐車場、あとは各小中学校、保育園、幼稚園、あとは大金駅前の駐輪場、それと烏山武道館、こちらのほうに設置しております。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） それでは、決算書53ページのふるさと納税関係の代理納付等についてお答え申し上げます。

代理納付システムにつきましては、これはヤフー株式会社というんですかね、のクレジット納付を利用しているものでございます。決算書に書いてあります、その下にありますクレジットカードの取り扱いにつきましては、足利銀行に年度途中からお願いしたものでございます。ふるさと納税全体で464件ありましたが、こちらのクレジット払いでの納付につきましては342件ということで、約半数以上がクレジット払いということで、金額で申しますと、全体が1,350万円余なんです、クレジットで515万5,000円ということになっております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 水上税務課長。

○税務課長（水上和明） コンビニ収納の状況、効果ということでございます。お答えいたします。

コンビニ収納につきましては、平成24年度から全税目について対応しているところでございます。平成25年度には約1万1,000件だった取り扱い件数も、平成29年度には約6,000件ふえまして、1万7,088件ということになってございます。平成29年度における収納全体に占めるコンビニ収納の割合も17%を超えてございます。

平成29年度の実績で申し上げますと、経費が約237万6,000円かかってございまして、税収が約3億2,330万円でございます。これを件数で単純に割りますと、1件当たりの経費が139円、1件当たりの平均税収が約1万8,900円ということになってございまして、単純計算ですけれども、139円の経費で1万8,920円の税収を得ていることとなりますので、効果は大きいと考えているところでございます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） 私のほうから、決算書179ページ、緊急告知ラジオシステム業務648万円の内容について、まちづくり課のほうから答弁いたします。

行財政報告書42ページをごらんになっていただきたいと思います。42ページの下から2つ目の丸、なすから情報局という項目があると思います。株式会社エフエム栃木さんと番組提携をしております。その中で毎週火曜日午後3時30分から10分間ほど、なすから情報局という、市をPRする情報番組を持っております。これにかかる費用が先ほどの金額になってまいりますが、実はこれにつきましては防災ラジオの受信テストも兼ねているという観点から、第3火曜日、月一度の第3火曜日ですが、防災ラジオ電波受信テストというのをしております。なすから情報局を聞いていても、聞いていなくても、防災ラジオをお持ちの方は、電源が入っていれば緊急の試験電波が流れて、それをキャッチするという確認行為ができるというようなものとなっております。

もともとは総務課の危機管理のほうで始まったこのシステムですが、内容につきましては市のPRということで、まちづくり課ができてから私どもの課のほうでそういった情報番組を提供しているというものでございます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） 決算書109ページの高等職業訓練促進給付金について、内容と実績ということで、まず実績については、1名の方です。

内容につきましては、荒井議員も申されたとおり、母子または父子家庭の母または父が就職の際に、有利で生活の安定につながる資格を取得するために、1年以上、養成訓練機関に通う場合に、支給要件を満たせばその修学期間中に交付するというものなんです。この対象資格というのは、看護師とか准看護師、保育士等あります。

その支給というか申請に当たりましては、あらかじめ事前相談をいただいて、そういった資格とか養成訓練機関とか御相談いただいた方の状況がその支給要件に該当するかどうかというのをよく事前に窓口で相談をした上で、その後の手続ということで、該当する場合は御案内をしている状況でございます。

○議長（沼田邦彦） 4番荒井議員。

○4番（荒井浩二） ありがとうございます。1件目のメンタルヘルスに関しては、了解しました。

あと、2件目の廃棄文書の処理業務に関して、先ほどもお伺いしたんですが、今後、変更や検討というのは特にないのかということよろしいのかということを一応確認したいのと、あ

と3番目の、まずふるさと応援寄附金の件ですね。システムや利用料の内容はわかりました。それで、ふるさと応援寄附金のほうで、おとしに比べて去年、寄附の件数等が減っているようですし、あと全国的にもふるさと応援寄附金について賛否があるようなんですけれども、市としてこちらをどのように運営していくのか、計画等ありましたらお教えてください。

あと、コンビニ収納の件ですね。こちらも話、伺ったところ、費用対効果は非常に高いのかなというところで、ただ、まだ17%の利用ということで、本市は税務課さんの働きのおかげで一部を除いて徴収率は高いようなので、この数字をより上げていただけるようお願いいたします。

あと、4件目の防犯カメラの件ですね。こちら、設置場所等はわかったんですけれども、こちらはシステム全体としてのレンタル料なんでしょうか。例えば最近の防犯カメラだと、クラウド化されていたりとか、あとハードディスクに保存だったりとか、あと問題があったときにすぐ内容を確認できるかとか、あとそういった、そちらの費用も全部含めての内容なのかということと、あと保存期間等、もし決まっているのであれば、言える範囲で結構ですので教えてください。

あと、高等職業訓練給付金に関してなんですけれども、1名ということで、こちらはちょっと少ないのか多いのかというのがわからないんですが、市内の、これもわかる範囲で結構なんですが、最近、感覚的には母子家庭、父子家庭というのがふえているように思うんですが、市内の増加割合と、仮にもし生活保護とかを受けているのであれば、何件くらいその中で受けていらっしゃるのかということに関して、可能であれば教えてください。

あと、防災ラジオの試験運転に関して、今回、一般質問でかなり防災に関する質問があつて、その中では余りこの防災ミニ番組放送事業に関しては出てこなかったかなと思うんですが、こちらのラジオ……、こちらはラジオで試験運転をされているということなんです、各民生委員さんにラジオが1台支給されているようなんですが、そちらの方が主に毎回、試験運転なんかを聞いていらっしゃる主な対象なんでしょうか。

以上、お願いします。

○議長（沼田邦彦） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） まず、文書廃棄については今のところ敷地内で機密文書を裁断して、そのまま運搬ということなので、情報がほかに漏れることはないのかなということで考えておりますので、今のところはこのような方法で廃棄のほうは考えていきたいと思っております。

それと、防犯カメラのほうでございしますが、これにつきましては、モニターが全て敷地内に有線でモニター設置になっておりまして、記録については2週間ほど、データのほうは記録に

なっております。

レンタルのものについては、ふぐあいがありますと即、新しいのに交換ということで貸与してもらおうこととなっております。

クラウド化とかいろいろあったんですが、前にやっぱりどこか事件がありましたよね。データを盗まれてしまったというのがありますので、今のところ有線のほうが安全性はあるのかなということで考えているところでございます。

それと、ラジオについては、民生委員・児童委員、あとは自治会長等に配布してありまして、今のところこちらと、あとは議員の皆さんにも、新人の議員の方にはまだ配っていないんですが、配っているんですが、なかなか利用状況というか活用状況が進んでいないというか、でありまして、ことしアンケートをとったんですが、余り使われていないような状況ということの報告を受けております。

実際このラジオ放送については、本当に住民避難にかかわる情報等が今のところ事例がないものですから、実際の緊急性というのがまだわかっていないところがあるのかなというのは考えております。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） ふるさと納税のことでお答え申し上げます。

件数が減っているということなんですが、ふるさと納税をしていただいている理由というんですかね、というのを見ますと、464件のうち240件が特産品に興味があったということで寄附をしたというのが一番多い理由でございます。残り約200件につきましては、那須烏山市がふるさとであるとか住んでいたことがある、また、親戚があるというようなことで寄附していただくのが約200件ということでございますので、件数をふやしていくのには、どうしても那須烏山市というのをPRする、また特産品を魅力あるものにするということでございますけども、特産品につきましては総務省のほうから寄附額の3割以内にしろという強い御指導があるものですから、なかなか金額的に上げるというわけにはいきませんので、そこら辺の内容は今後、工夫してまいりたいと考えております。

○議長（沼田邦彦） 水上税務課長。

○税務課長（水上和明） コンビニ収納に関しましては、平成28年度からは再発行納付書もコンビニで使用できるようになるなど、納税環境の整備には力を入れているところでございます。今後も利用率向上に努めてまいります。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） 御質問いただいた母子・父子家庭の世帯数ということなんです

が、こども課として把握しているものは、行財政報告書の135ページの⑤にあります、これは1つの手がかりとしてなんです、ひとり親家庭医療費の助成ということで、これでたしか18歳までということで医療費のほうの助成を行っていますが、この登録世帯ということであれば、ここにお示したように231世帯なんです、その年齢というか、この対象から外れた世帯も含めるとなりますと、ちょっとそれを把握したものがございませんので、今現在、申し上げられるのはこちらの数字となります。

○議長（沼田邦彦） 4番荒井議員。

○4番（荒井浩二） おおむね了承しました。

あと、防犯カメラの件に関してなんです、1つちょっと漏れで、どのような方が記録した内容を問い合わせ参照できるのかというところをちょっと確認させてください。

○議長（沼田邦彦） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） 今のところモニターについては施設内の事務所等に設置しておりますので、モニターの確認はその施設の管理者が管理していて、今のところほかに情報を出したということはありません。

○4番（荒井浩二） わかりました。ありがとうございます。

○議長（沼田邦彦） 5番福田議員。

○5番（福田長弘） それでは、3項目について質問をさせていただきたいと思います。

まず1つ目でございます。今年度、デマンド交通のほうで、サタデマンドというのが実証実験として9月まで行われて、まだ9月中かと思いますが、やっております。実証実験として今後のサタデマンドに対する見通し等々、今後のことがありましたらお聞かせいただきたいと思います。

続きまして、済みません、決算書83ページ、衆議院選挙に関する費用の面でございます。選挙啓発用キャラクターめいすいくんというのが計上されております。これは衆議院選挙でどのような、このめいすいくんは御活躍をされていたのかお聞かせいただきたい。ちょっと私もいろいろ立ち会ったんですが、あんまりお見かけしていないので、どんなところで活躍されたのかお聞かせいただきたいのと、この費用については、この国庫の補助金等を利用されているのかということをお聞きしたいと思います。

3点目でございます。那須烏山市決算書159ページ、長峰ビジターセンターの管理費についてお伺いさせていただきたいと思います。これは県の施設でございます。ページ戻りまして、29ページに歳入のほうで県のほうから委託金が発生しておりますが、管理費のほうがはるかに出金が多いと。どういうことなのかというのと……、そのあたり、お聞かせいただければと思います。

よろしくお願いいたします。

○議長（沼田邦彦） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） それでは、サタデマンドについてお答えいたします。

昨年4月から9月まで、サタデマンドというのを実証実験として実施いたしました。根拠としては、土日の公共交通、特にデマンド交通についての導入の意見がここ数年ございました。それではその土日にどれだけのニーズがあるか、それを把握するために、サタデマンドというものを実証したところでございます。

結果から申し上げますと、実際に登録されている……、デマンドの登録されている方なんです、その方のうち65歳以上の方が主にサタデマンドを使いましたが、2%程度の登録者数の利用であったというようなところから、基本的に土日の需要はそんなにないものとして判断した経過がございます。

現在、サタデマンドについては、今後のことを想定し休止というような形でとめている状況でございます。したがって、平成30年度の当初予算にも計上することも検討いたしましたが、今後の需要を待って、また現在、デマンド交通、また健康福祉課等がやっております福祉タクシー券、総務課がやっている自主返納のタクシー券、そういったタクシー制度もございまして、一体的にどのようなものが一番いいのか、それを検討中でございます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） 私のほうは、めいすいくんについてお答えしたいと思いますが、選挙啓発運動で各スーパー等でのチラシ配布とか、各学校に行き選挙啓発運動をするときに、着ぐるみのめいすいくんを使って啓発をしていたわけでございますが、今までほかの市から借りて、めいすいくんを使っての啓発をやっていたところでございますが、今回、衆議院議員選挙の関係で補助的なお金も入るとこととなったものですから、こちらのほうで購入して、今後の活躍も期待して購入したところでございます。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸） 私のほうからは、決算書の159ページ、長峰ビジターセンターの管理費についてお答えします。

長峰ビジターセンターにつきましては、施設の所有者である栃木県のほうから委託を受けまして、市が施設の維持管理を行っております。

昨年度における県からの委託金27万6,480円に対しまして、消耗品費、光熱水費、浄化槽の清掃、鍵の開閉や清掃などの維持管理費を含めまして75万4,164円の支出となっております。47万7,684円が市単独での持ち出しの形となっております。

長峰ビジターセンターにつきましては、維持管理のあり方について昨年度から栃木県のほうと協議を行ってございまして、今年度内には結論を見出す方向で調整を図っているところでありますので、御理解願います。

○議長（沼田邦彦） 5番福田議員。

○5番（福田長弘） ありがとうございます。サタデマンドのほうはそういうことで、全体的に通して計画的に利用していただければと思います。

選挙のめいすいくんもぜひ、用意したのであれば皆さんが、学校だけじゃなく市民の方にも広く認知していただけるように頑張っていたきたいと思います。

それでは、長峰ビジターセンターの件です。これだけかかると。県から出ていますけども、これだけ自己負担がふえていると。県の施設で。それでこちらのほう、市長を筆頭に県のほうに、これだけかかってしまうんだとよく言って、増額してもらいなりしていただけるような、継続するのであればそういう努力もしていただければと思います。

以上で終わります。

○議長（沼田邦彦） 6番村上議員。

○6番（村上進一） 私は、5項目について御質問いたします。

最初は、決算書のほうなんですけども、補正予算を計上した額以上に、不用額が発生した費用がございまして、不用額、項目は書いてあるんですけども、なぜその不用額が発生したかの要因、それをちょっとお聞きしたいんですが、58ページ、企画費、補正予算額が164万8,000円、不用額が373万2,059円。72ページ、賦課徴収費、補正予算額が234万6,000円、不用額が618万1,986円。106ページ、母子福祉費、補正予算額802万6,000円、不用額が903万619円。118ページ、扶助費、補正予算額1,638万円、不用額が3,375万549円。178ページ、事務局費、補正予算額が322万4,000円、不用額が955万8,897円。188ページ、小学校の学校管理費、補正予算額が333万6,000円、不用額が2,031万3,010円。同じく198ページ、中学校の学校管理費ですか、補正予算が546万8,000円、不用額が2,368万9,888円。232ページ、体育施設費、補正予算額350万7,000円、不用額が706万2,008円。それぞれの費用について御説明いただきたいと思います。

続きまして、行財政報告書のほうで、私もふるさと応援寄附金の増減について質問したかったんですけども、先ほど御回答をいただいたので、その決算書の52ページに、ふるさと応援寄附金事業費の記念品取りまとめ業務費が346万5,417円と記載されているんですけども、その内容について、ちょっと御説明いただきます。

3番目が、同じく行財政報告書42ページ、地域おこし協力隊の活動についてということで

ございます。現在、3名の隊員が中心街活性化に向けて活動していますが、済みません、私の認識不足かもしれないんですが、地域おこし協力隊の活動が余り何か市民の皆さんには見えてきていないのかと感じているんですが、この2年間活動してきて、その辺の感じを御説明していただきたいと思います。ことしで3年の任期が切れると思うんですけども、任期終了後、この3名の隊員の地域の定着はどうなっているのか、今現在で結構なんですけど、わかる範囲でお願いします。

関連しまして、決算書の61ページ、地域おこし協力隊活動拠点施設使用料が19万4,400円と載っているんですが、この内容について御説明いただきたいと思います。

4番目、同じく行財政報告書の108ページ、個人番号カード交付件数なんですけども、平成29年度申請率が9.82%、低調でございまして、これまでこの普及についてどんな活動をされていたのかを御回答願います。

それと104ページで、「今後、個人番号カードを利用した各種証明書等のコンビニ交付の導入を見据えて」とありますが、どんな証明書を、いつごろ導入する予定なのか、わかる範囲で御回答願います。

最後、同じく行財政報告書、111ページ、高齢いきがい担当と書いてあるんですけども、「高齢者福祉事業では、敬老会・祝金事業について、制度が継続できるよう見直しを実施した」とありますが、その実施した内容についてお答えください。

また、関連して、決算書の95ページなんですけども、高齢者福祉事業費の敬老祝金とか100歳祝金というのは理解できるんですが、ここに敬老会交付金914万2,200円とあるんですが、この金額の内容とか算定基準とか、そういったものを御回答いただきます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） 決算書58ページ、補正額より不用額が多いということでございます。

内容的には、59ページの各節ごとに不用額、表示してございますが、補助金関係等につきまして、思っていたより実績が伸びなかったと。また、それぞれ交付金等は県や国からの内示等があって不用額が多かったということでございます。

○議長（沼田邦彦） 水上税務課長。

○税務課長（水上和明） 決算書の72ページ、賦課徴収費、補正額に対して不用額が多いということなんですけど、この件に関しましては、調べまして、後ほどお答えさせていただきたいと思います。済みません。

○議長（沼田邦彦） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 私のほうからは、決算書232ページ、体育施設費、やはり補正額よりも不用額のほうが多いということですが、これにつきましては、工事費等の残、それから需用費関係で光熱水費等、それが当初より、主には夜間照明の電気料なんです、見込んだよりも安く済んだということの積み重ねでこういう額になっております。御了解願います。

○議長（沼田邦彦） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） 決算書のほうの188、189ページでございますが、小学校管理費には、各学校の運営費等も記載されておまして、そちらのほうの金額が余ってきたというような状況ですね。

198、199ページのほうが中学校費というようなことで、同じような形で各学校の運営費等の支出が少し余ったというようなことで、残が出てきているというのが大きいものでございます。

○議長（沼田邦彦） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） 決算書の母子福祉費の補正額よりも不用額が多かったという点につきましては、ちょっと内容を再確認したいと思います。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） 総合政策関係で1件、答弁漏れがありました。決算書52ページで、ふるさと応援寄附金の取りまとめの業務ということでございました。

こちらにつきましては、346万5,000円余ですが、内容的には1件800円としまして、返品品の取りまとめ発注等を観光協会のほうにお願いしているものですから、そちらの経費でございます。観光協会、408件分でございます。端数が出るのは、郵送料も含めての委託なものですから、端数が出ます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） それでは、私から2点ほど、地域おこし協力隊とそれにかかわる活動拠点、その2点です。

まず、地域おこし協力隊3名、今のところ活動しております。平成28年の10月から11月、合計で3名、それ以降、活動しております。

どのような活動をしているか見えてこないということは、この2年間、さまざまな議員さんからもお話がありまして、広報またはいろんなイベントの中でも活動はしているんですが、なかなか見えにくいというようなところから、今年度どうにか目立つような活動をしようということで、今現在、予定しているのは、今後、行政区長等の文書配布、そういったものを通し

て、じかに紙ベースでの周知をちょっとしていこうかということで現在、動いているところでございます。

現在どのような活動をしているかでございますが、榎本隊員につきましては、ローカルメディアやみぞMagazineというページを立ち上げて、今、活動しております。そのほかに、県主催のグリーンツーリズムの資格をとりまして、それにまつわる企画を既にも実施、何回かしているところでございます。

田中隊員につきましては、現在総合的な学習支援事業ということで、居場所づくりというようなところをテーマに、子供たちの集まれる場所、そこを通したいろんな体験ができるような学習の環境を整えていきたいということで現在、活動しております。

市田隊員につきましては、火曜日のごはんというような事業を展開しておりました。それにつきましては現在、休止しておるところでございますが、烏山高校に定期的にコロッケバーガーを売り、活動していたり、彼処珈琲という名称で市内のイベント、または高根沢のイベント、近隣からもお呼びがかかっているようで、彼処珈琲というようなところでおいしいコーヒーを提供する、そういった事業もしております。また、生涯学習課の事業で、おいしいコーヒーの入れ方というようなテーマをもとに学習機会がございまして、その中で市田隊員が活動しているところでございます。

今後につきましては、実際に企業を立ち上げていく上において、どのような支援ができるのか現在、市内の金融機関とちょっと今、相談中でございますが、支援の方法についてたたき台をつくっているところでございます。

もう一度ですが、今度、決算書の61ページの地域おこし協力隊活動拠点施設使用料でございます。これにつきましては以前、協力隊のベースとなっていたところは、栃木銀行前にBONBONという施設がございました。現在そのBONBONが廃止され、使えなくなったことから、活動拠点につきましては一度、駅前の合同タクシーの2階、「ぷらっと」という別な団体が所有しているところをお借りした費用がここでございます。半年間、10月から3月までその期間を使いました使用料が19万4,400円でございます。

現在、活動拠点につきましては、栃木銀行前の元BONBONの後、今度、「870（はなれ）」というような名称で現在、活動拠点として使用しているところでございます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 佐藤市民課長。

○市民課長（佐藤加代子） 私のほうからは、行財政報告書108ページの個人番号カードについてお答えいたします。

この個人番号カードにつきましては、最新の情報で、7月末になるんですけれども、本市の

申請率が10.2%とほとんど伸びていない状況にはなっております。県の平均が12.8%ですので、本市は下から数えて5番目ぐらいのちょっと低い申請率になっている現状でございます。

これには、やはりこの個人番号カードの利用効果が本市においてはまだ何も得られていないということが大きいかと思えます。今のところ身分証明書としての利用がほとんどでありまして、そのほか、若い世代では子育てワンストップができますよということで、ことし1月にそれをPRしまして、集中受け付けを行ったんですが、実際にこども課に来た若い世代の方に利用していただくということで、端末をそちらに置きまして、その場で写真を撮って申請までできますよというようなサービスを行ったんですが、実際にその集中受け付けのときに来た方は、目標としていた若い世代ではなくて、高齢者の方がほとんどという実態でございまして、やはりまだなかなか若い世代になじみがないのかなということで、今後、先ほど質問にありました証明書のコンビニ交付を実施すればある程度、若い世代にも普及するのかなと思えますが、このコンビニで取り扱う証明書とはどういうものかということですが、今現在、県内では16の市町が既にコンビニ交付を行っているんですが、そのほとんどで取り扱っているのが住民票と印鑑証明書になります。市町によっては、税証明を取り扱っているところもかなりありまして、あと少数ですが、戸籍謄・抄本、そちらを取り扱っているところも若干あります。

本市におきましては、どこまでの証明書を出すことが有効かということを含め、今後、検討いたしまして、導入に向けて進めていきたいと思っております。

○議長（沼田邦彦） 稲葉健康福祉課長。

○健康福祉課長（稲葉節子） 私のほうからは、決算書95ページの敬老会の交付金についてでございます。

交付金については、行財政報告118ページ、イ、敬老会対象者数ということで書いてありますけれども、各自治会のほうに3,700円でお一人分、それから自治会1地区5,000円分という形で交付金を実施しておりますので、その対象者に基づいての交付金ということになります。

また、今後の見直しということですが、118ページを参考にいただきまして、高齢者福祉事業については3年に1回の見直しをしております。それで、平成29年度に見直しをしておりますが、まずアの100歳到達者の祝金、これが10万円ということになっておりますが、こちらが5万円ということになります。それから、敬老会の対象者でございますけれども、75歳以上の高齢者ということになっておりますが、こちらが段階的に切り上げて、77歳ということになりまして、ことしは76歳以上の高齢者ということになっております。

それから、ウの敬老祝金についてでございますけれども、こちらが80歳のみということで、

支給額は同じということになって見直しをかけております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 6番村上議員。

○6番（村上進一） 118ページの扶助費と、178ページの事務局費についての御回答がまだないと思うんですが。

○議長（沼田邦彦） 稲葉健康福祉課長。

○健康福祉課長（稲葉節子） 扶助費のことについては、118ページの生活保護扶助費のほうでございますけれども、こちらは補正額を1,638万円計上しておりまして、不用額が3,375万549円ということでございますけれども、こちらの生活保護費のほうには、生活扶助費、それから医療費、介護費ということになっておりまして、特に医療費のあたりがなかなか見込めない額ということになっておりまして、1人手術をしたりとか透析をしたりということになると多額な金額が生じてしまうということがありまして、今回は手術をしなかった、それから透析の方が少なかったというような要因があります。

○議長（沼田邦彦） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） 済みません、178、179ページの事務局費、学校の事務局費でよろしいんですか。

○6番（村上進一） そうです。

○学校教育課長（岩附利克） 学校の事務局費については教育委員会事務局費、奨学基金とか英語コミュニケーション、サタデースクールとか遠距離通学支援とかいろいろ、適応指導教室、メンタルヘルスとか、児童生徒の表彰、小中学生の海外派遣、学校評議員とか教育情報ネットワークとかいろいろそういう事業がたくさん入っているんですが、その中で大きなものを申し上げますと、サタデースクールが、これはスクールバスを使って運行していたんですが、それ、当初予算では500万円ほど見込んでいたのが300万円ぐらいでできたということがあるのと、あとは中学生海外派遣が40万円ほど減額になっているというようなことと、教育情報ネットワーク等についても100万円ほど減額になっているとか、個々のものが積み重なっているのが大きな要因ですね。

あと、高校教育振興ということで、先ほど言った烏山高校の通学補助金なんですが、1,400万円ほど予算計上していたんですが、実際には1,211万2,534円というようなことで、ここで200万円ほど減額になっている、そのような状況でございます。

○議長（沼田邦彦） 6番村上議員。

○6番（村上進一） 予算を組むときに、予想つかないような科目があつて、こういった不用額が多額発生したとは思いますが、長年こういった予算、組まれていますので、その

辺の予算を組むときに、この不用額が余り多額に発生しないように、ましてや補正予算組んでいますので、その辺のことは今後、予算を組む上で適正な予算を組んでいただければいいのかなと思います。

高齢者福祉事業の敬老会交付金なんですけども、私の個人的な考えで、敬老会に出席する各自治会の出席率はそんな高くはないと思うんですが、その出席する、しないにかかわらず、この交付金の914万2,200円というのを交付しているんでしょうか。御回答願います。

○議長（沼田邦彦） 稲葉健康福祉課長。

○健康福祉課長（稲葉節子） この交付金については、自治会で敬老会を主宰していただけるということであれば、その自治会のほうでその該当する方をどう捉えるかということは、2つありますけれども、班に入っている方だけで捉えている自治会もありますし、広く声をかけて対象としているという自治会もございますので、それは自治会の意向を酌んで、敬老、敬老ということ周知を図る目的も兼ねて交付しております。

○議長（沼田邦彦） 6番村上議員。

○6番（村上進一） 質問は以上でございますが、私、個人的な考えでは、交付金、敬老会交付金だよと交付して、全額が敬老会に使われているかどうか分からない。出席率が当然低いと、何かこう……。 （「自治会で足してやっている」の声あり） そうすればそれで終わりということなんですね。後は……。 わかりました。

○議長（沼田邦彦） どうぞ、質問を続けてください。

○6番（村上進一） その辺は後々、勉強したいと思います。

質問は以上です。ありがとうございました。

○議長（沼田邦彦） ここで、暫時休憩いたします。

休憩 午前11時59分

再開 午後 1時00分

○議長（沼田邦彦） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

ここで、先ほど村上議員の質疑に対し答弁漏れ等がありましたので、追加答弁があります。水上税務課長。

○税務課長（水上和明） 決算書72ページ、73ページ、賦課徴収費の不用額の件でございます。

徴収事業費につきましては、さらに7つの細事業に分かれておりまして、それぞれの事業における不用額の積み上げということになってございます。その中でも、委託料において大きな額の不用額が発生しておりますが、例えば固定資産税などの場合は、地目変更等、税額の変更

があった場合、予想されるアップパーの金額で予算を計上しておるものですから、どうしても不用額が発生してしまっているところでございます。

今後はなるべく不用額が発生しないように、予算のほう、しっかり計算して計上してまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） 決算書106ページの母子福祉費の関係についてお答えいたします。

この事業も、大きく分けますと8つぐらいの事業に分かれているんですが、主にはこども医療費とか妊産婦医療費等の医療費に係る費用がメインでありまして、前年度の当初予算を見込んだ上で不足が生じる場合には、早ければ12月、または3月補正ということで対応しておりますが、最終的に予算要求時期の関係もありまして、例年1月時点でということで見込んだ数値が、結果的には3月末ではそこまで給付が必要でなかったという結果の積み上げになるかと思っております。

このほか、例えば養育医療とか、例えばDV等の相談案件があつて母子の緊急の施設入所等の費用もあるんですが、こちらについては当然、不測の事態をといたしますか、そういうことを想定して予算措置しているんですが、結果的にそういう事案がなかった、件数が少なかったということで、その金額が結構大きくなっているところもございます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 稲葉健康福祉課長。

○健康福祉課長（稲葉節子） 先ほど敬老会の交付金についての説明の中で、1人分の交付金の額を私、3,700円と申しましたけれども、1,700円の誤りでしたので、訂正いたします。失礼しました。

○議長（沼田邦彦） 7番矢板議員。

○7番（矢板清枝） それでは、質問させていただきます。

まず、行財政報告書の中から3点、112ページ、健康福祉課のことなんですけれども、骨髄等移植ドナー支援、ドナー及びドナーを雇用する事業所へ奨励金を交付する制度を平成29年10月から創設しましたが、どれだけの実績があつたのかお伺いしたいものです。

続きまして、191ページ、環境課のごみ減量化対策についてお伺いいたします。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け1,350キロ小型家電回収ボックスで回収されたものを利用したのかどうかというのも含めて、どのようにやったのか報告というか、そのことについてお話をいただきたいと思っております。

223ページ、放課後子ども教室のことについてお伺いいたします。放課後子ども教室は、放課後や週末の子供たちの安全安心な活動拠点を設けるとともに、地域住民の参画を得ることで地域の教育力の向上を図ることを目的に実施されてきましたが、そして今年度も実施されましたが、実施状況と実績、また、来年度の計画はあるのかどうか、お話をいただきたいと思えます。

続きまして、決算書のほうから85ページ、民生費、社会福祉施設整備費2,500万円、建設事業費補助金、社会福祉施設整備費1,500万円かな、数字が弱いもので済みません、の事業内容と進捗状況についてお伺いしたいと思います。

次、105ページの内容で記載されていることがちょっとわからないので、お話ししていただきたいと思うんですけれども、ホンピカソンステージ公演料、このホンピカソンというの内容がわからなくて、ちょっとお話ししていただければと思います。（「ページは」の声あり）105ページ。ごめんなさい。105ページの中に、ホンピカソンステージ公演料10万五千……、（「ポコピカソン」の声あり）ポコピカソン、ごめんなさい、ポコピカソンステージ公演料というそのポコピカソンという聞きなれない言葉なので、お話ししていただければと思います。

それから、107ページ、保育所等施設整備支援事業費の中の小規模保育事業所施設整備の事業内容と進捗状況についてお伺いします。

それから、115ページ、にこにこ保育園施設整備費、園舎空調整備改修工事費が2,435万4,000円かかって、もう事業は済んでいると思うんですけれども、工事の内容とか、その期間がどのくらいかかったのかということをお話しいただきたいと思えます。

それから、237ページ、南那須武道館施設整備費の解体設計に係る業務、建設事業費委託料の123万1,200円の、解体するための設計を委託するという金額だと思うんですけれども、この設計がいつまでにできて、また解体する日はどのくらいになるのかということをお話ししていただければと思います。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 稲葉健康福祉課長。

○健康福祉課長（稲葉節子） それでは、私のほうからは、骨髄等移植ドナーの状況ということでございましたので、行財政報告書の129ページ、これは平成29年10月から実施したものでございまして、該当者が1人おりました。これはドナーとなった方と、あと事業所へということなんですが、実は職員であったために、事業所への交付はしておりませんので、1件だけあったということでございます。

それから、ちょっと飛んでしまうんですけれども、先ほど決算書のほうの85ページ、社会

福祉施設整備費の1,500万円でございますけれども、こちらは足銀烏山寮を買い取って大和久福社会のほうでグループホームにしていたものを、新しく施設整備するということで、施設整備として市から1,500万円交付したものでございます。ですので、グループホームが新しくなったということで、進捗状況についてはこれまでどおりグループホームを運営していただいているということになりますし、地域への還元もしてほしいということで、そのグループホームで地域とのつながりを催すイベント等も企画してほしいということでお願いしている状況でございます。

○議長（沼田邦彦） 小林環境課長。

○環境課長（小林貞大） 行財政報告書にあります小型家電リサイクル関係のことでお答えいたします。

ここにありますように、1,350キロにつきまして、小型家電を引き取っていただいている指定業者のほうに引き渡しました。平成29年度はこの重さだったんですが、分別をしなかったものですから、これに対する引き渡しの費用としましては、1,458円の収入にしかありません。

具体的にこれで金は何キロ、銀が何キロ、銅が何キロというのは、それぞれのものによって違うものですから、具体的な数字はこちらのほうに来ておりません。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） まず、決算書の105ページにつきましてなんですが、ポコピカソンの内容については、後ほど確認をしてお答えしますが、これについてはにこにこ保育園の併設になっております子育て支援センターきらきらにおいて実施したものになっております。

続いて、決算書の107ページ、小規模保育事業所施設整備費の2,423万9,000円の件なんですが、こちらについては小規模保育事業所ということで、キッズランドあさひに対して補助金を交付したものでありまして、具体的には行財政報告書の151ページをお開きいただきたいんですが、こちらに詳しい内容をお示ししておりますけれど、国庫補助分と市の補助分を合わせまして、この金額を交付しております。

昨年中に工事のほうは実施しまして、開園は平成30年1月からということで、キッズランドあさひについては元の宮原保育園のところの改修をして開園したものでございます。

それと最後に、決算書の115ページのにこにこ保育園の施設整備費についてですが、まず、工事の期間につきましては、平成29年の5月9日から7月31日ということで工事を実施しまして、もちろん完了はしております。

それと、内容につきましては、保育園内の集中管理で使っておりました空調機器がだめにな

ったということで、そちらの更新に係るものでございます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 私のほうからは、最初に行財政報告書223ページ、下のほうのウの放課後子ども教室の実績と来年度の予定ということでございますので、実績につきましては、こちらのほうに記載のとおりでございます。

平成31年度についても一応、今のところは実施する方針で、補助金等の申請事務も進めているところでございます。

続きまして、決算書237ページの下から2段目、解体設計業務、これがいつ終わったかということでございますが、昨年11月に設計のほうは終わっております。解体費の額ということで御質問があったかと思うんですが、この設計業務については全部、考えられるもの全て入れていただいて、解体工事費のほうの積算をしていただいたところ、大体4,000万円ぐらい。あそこについては、盛土ということで、コンクリートくいが六十数本、埋まっている、その撤去費用も入れてございます。

それから、あそこに50人槽の浄化槽が設置になっているんですが、武道館そのものと弓道場と併用になっておりまして、現在その50人槽をそのまま弓道場で使うとなると割高になるので、もし仮に撤去をして5人槽、10人槽の浄化槽を入れた場合に幾らぐらいになるのかというこの費用等も入れてございますので、単純に本体だけを解体する工事費ではないので、そういった大きい金額になってございます。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） 先ほど後ほどと申しあげましたポコピカソンのステージ公演の内容についてお答えいたします。

この内容につきましては、元歌のお姉さん、お兄さんのコンビ名がこのポコピカソンという名称で呼ばれているようでございます。内容につきましては、歌や手品というマジックですね、バルーン等を取り入れて、子育て支援センターきらきらに来ている小さいお子さん、それからその保護者といいますかお母さん方を対象に、このような形でイベントを開催したという内容でございます。

○議長（沼田邦彦） 7番矢板議員。

○7番（矢板清枝） おおむね了解いたしました。

1つ再度、再質問させていただくのは、放課後子ども教室の指導員に当たる方の人数というか確保というか、それは大丈夫なのかどうかという、人員不足ではないのかどうかというのを

お聞きします。

○議長（沼田邦彦） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 放課後子ども教室運営については、市のほうの団体でありますから教育支援ネットワークさんのほうにお願いして実施していただいているところなんです。やっぱり指導員の先生とか方々の確保にはちょっと苦勞していると聞いてございます。そちらのほうの団体のほうも、この先ちょっとということではいろいろ御相談とかも受けているのが実情でございます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 7番矢板議員。

○7番（矢板清枝） では、その確保に当たり、いい方向に行くようにいろいろ協議していただいて、しっかりとした、子供たちのこの教室もとても人気があるようですので、ぜひよいものを子供たちに提供していただければと思います。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 8番滝口議員。

○8番（滝口貴史） じゃあ、何点か質問させていただきます。

まず、行財政報告書31ページ、那須烏山市広報カレンダーについて、今年度は4,000部を配布したということで、次年度以降どうなるのかということ。

次に、32ページ、集団広聴事業で、2月22日に行われた、烏山高等学校の生徒を対象に行った事業について、人数や場所、どのようなことを話したか教えてください。

3点目、42ページ、先ほど村上議員も質問しましたが、地域おこし協力隊について、我々のところも去年は総務企画常任委員会で一緒に話を聞いたりさせていただきましたが、やはり活動の内容が全然見えてこない。お友達クラブでやっているんじゃないかという声まで私のところには聞こえてきています。市の事業としてやっているのに当たって、しっかりとした見解をお聞かせ願いたい。先ほど現況は聞いたので、しっかりとした今後の目標。また、この任期のうちに定住というものがしっかりとされているのか。去年聞いた感じでは、なされている感じが全然しなかったもので、そこについてお聞かせ願いたいと思います。

次に、49ページ、イメージキャラクターですね。毎年、私、質問している気がするんですが、出演回数が4回ほど減っていますけども、これはいいとしても、ゆるキャラグランプリになぜ去年、出なかったのか。前年度は、平成28年度292位で、結構盛り上がっていたと思うんですが、出なくなった理由、お願いいたします。

次に、51ページ、職員定数・組織管理というところの中で、今後、市の規模に則したスリムな組織改革の検討とありますが、現在どのような検討をなされているかお聞かせ願いたいと

思います。

次に、決算書の125ページ、環境対策事業費の公共用水域水質調査業務ですね。那珂川水系の小河川23カ所において水質改善検査が行われていますが、毎年のように大腸菌の数が基準値を大きく超えていると思います。この結果についてどのように周知し、注意喚起を行っているかお聞かせ願いたいと思います。

次に、行財政報告書に戻りまして、ごめんなさい、177ページ、企業誘致の関連で、事業用地等情報提供制度の登録件数が平成29年度末では16件あり、平成28年度より実績が1件しかふえていません。まち・ひと・しごと創生総合戦略においては、平成31年度までの目標を30件としており、現在53%しか達成できていない。去年もこの質問をしたと思うんですが、登録件数の増加に向けてどのような努力を行ったか、お願いいたします。

次に、決算書の161ページ、山あげ会館の施設整備費ですね。外壁調査業務として97万2,000円支出しています。どのような調査内容で、どのような調査結果が得られたか教えてください。

それと、決算書の63ページ、地域の学校を核とした地方創生事業費46万794円。烏山学だと思うんですが、烏山学、今年度も新烏山学だかという形で続いていると思いますが、それについてお願いいたします。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） 行財政報告書から、まず31ページ、広報カレンダーになります。今回4,000部をつくりまして、3,900部を配布してございます。こちらにつきましては以前、各世帯だったものを希望世帯という形で進めさせていただきましたが、若干いろいろな問題等もありますが、来年度につきましてもやり方としては同じく希望世帯にということで、全世帯ではない方向でやりたいかなと思っております。

あと、広報のほうで、32ページになりますが、烏山高等学校の生徒、2月22日にやっていますが、参加人数は7人でございます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） それでは私から、地域おこし協力隊、それとイメージキャラクター、最後に烏山学、その3点についてお答えしたいと思います。

まず、地域おこし協力隊ですが、活動内容が見えてこないというところにつきましては、先ほど村上議員にもお答えしたとおり、現在その姿が見えるように、地域内の行政区長文書配布等で周知を徹底し、みんなに見てもらえるような活動をしていきたいということで今、考えて

おります。そのほかにもそれぞれの「広報なすからすやま」とかでも適宜、随時というんですかね、報告については掲載しているような状況でございます。

今後につきましては、どのような形で、しっかり根づいた定住ができるかといった点につきましては、これからの事業計画をしっかり練ることから始まると思いますので、その事業計画については市内の金融機関等々のプロの方にもアドバイスを受けるような支援を今のところ考えておりますので、詳細が煮詰まった段階では、議員の皆様にはこのような形でやっていきたいというような報告が年度末ごろにはできればいいかなと考えてございます。

年度末には、年に1回の報告会を開催してございますので、その中で見ていただければ思っております。

イメージキャラクターにつきましては、まずゆるキャラグランプリに出ていないというようなところなんですけど、平成28年度実施しましたが、ゆるキャラグランプリの効果が余りなされないのではないかなというところから、しばらく見送ろうというようなところで、それには参加しなくなった経過がございます。そのかわり市内のイベント、また、近隣町のイベントで出るイベントにつきましては、ゆるキャラが行って市内の観光PR等々に活躍しているというような状況でございます。

それから、最後に烏山学に関してでございます。烏山学に関しましては、地方創生推進交付金、七福神プロジェクト事業というような一環で行ってございますが、烏山学に出られた講師の皆さんの謝金等々を市のほうで負担していたり、現場を確認したときの送迎に使う車等の借上料でございますが、今年度につきましては、平成29年度から始まりました事業でございますが、30年度は烏山学+ということで、今度2学年生、昨年1回受けた方が2年生になって、今度は地域の外から見るとというような事業に転換してございます。1年生は市内を見て、2年生になったら今度、外からの那須烏山市を見ていく、そのようなことから地域の問題解決能力を磨いていく人材育成といった点から、烏山高等学校とよく協議をしながらやってございます。

今後につきましても、烏山学に関しては烏山高等学校の先生、また、那須烏山市の若手の職員等の意見交換の場を設けるなどして、これから若い人たちがどのようなまちづくりを描いていくか、そのような協議ができればいいかなということで今、進んでいるところでございます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） 私のほうからは、組織機構改革の関係でお答えしたいと思います。

今年度7月から毎月なんですけど、組織機構の改革の検討委員会を、参事、課長等が中心となって開催しております。事務分掌等の洗い出しとか、あとは本来の課の配置等について、全般にわたって今、検討しているところでございます。ここも毎月開催した中で、来年度に向け

て組織機構改革ができるということで検討しているところでございます。

○議長（沼田邦彦） 小林環境課長。

○環境課長（小林貞大） 決算書125ページ、公共用水域水質の調査の関係でお答えいたします。

こちらの調査につきましては、行財政報告書の192ページ、193ページに、ことしの結果が載っております。こちらの黒い網かけが、基準値を超えているところでございます。特に大腸菌はこの基準を全てクリアしていないという状況がここ何年か続いております。その関係もありましたものですから、糞便性大腸菌の検査を実施しております。こちらにつきましては、荒川と那珂川6カ所、どれも1,000以下でございますので、いわゆる人間とか畜産物の汚れた大腸菌群ではないことは御理解いただきたいと思っております。

その他の数値につきましては、日にちによってある程度の上下といたしますか、ありますので、平成28年度はほとんど基準値、大腸菌以外は超えていませんでしたので、ことしちょっと超えてしまったんですけど、具体的に何が原因かというのは今のところわかっていない状況です。

ただ、これから水をよくするためには、上流というか、流すものがよくなればなると思っておりますので、下水道とか浄化槽とかそういったものが普及されればもっとよくなるのではないかと考えております。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸） 私のほうからは、行財政報告書の177ページ、事業用地等情報提供制度登録件数であります。登録数の増加に向けまして、空き地や空き工場等事業用地物件につきまして、所有者等を訪問しまして登録をお願いしたり、お知らせ版やホームページで周知を図っていたところですが、登録数についてはなかなか伸びなかった現状であります。

平成29年度につきましては、新規登録件数が3件ありましたが、事業用地が売買等によりまして2件取り消しとなりまして、結果として1件の増加となりました。今後も登録件数の増加に向けて努力してまいりたいと考えます。

続きまして、決算書161ページ、山あげ会館外壁調査業務でございます。こちらにつきましては、外壁につきましては危険度調査のために必要となる足場の設置に多額の費用が発生することから、これまで調査や改修工事が見送られてきたところでございますが、昨年度実施されました山あげ会館の大規模改修工事の実施の際に、全面に足場が設置されたことから、全ての外壁に関しまして目視点検のほか、ハンマーによる打音点検を業務委託により実施したところでございます。

調査の結果につきましては、至急改修が必要となる箇所は見当たらず、経過観察を行いなが

ら計画的な修繕を検討することが望ましいという結果となりました。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 8番滝口議員。

○8番（滝口貴史） 再質問させていただきます。

広報カレンダーについては、ことしと同様に4,000部ぐらい来年も発行するという
こと
でよろしいですかね。

集団広聴については今、市政懇談会、人数が7名で、相手方も烏山高等学校の生徒会の人だ
とかそんな感じだろうとは思いますが、昨今、いろんな高等学校と市と、矢板にしろ宇都宮
にしろうこういうことをやっています。高校生の新しい考えというのも取り入れるのもいいかな
と思います。これ、場所はどこでやったか後で教えてください。

先ほど、今度はイメージキャラクターなんですけど、ゆるキャラグランプリには残念ながら出
なくなりました。ゆるキャラグランプリ見ると、いつかは1,600体ぐらい出ていましたけど、
ことし、今現在、9月20日ぐらいまでやっているんですけど、600体から700体ま
で一気に減少して、やっぱり効果がないと。同じようなことだと思うんですが、栃木県はいっ
つき38体ぐらいですが、ことしは12体ですかね。先ほど見たら。そういうことがあります
ので、逆に出ないところを出れば目立つので、よろしくお願いします。

それで、先ほど課長が県内・県外、市内のほうが出ているというけども、逆に4件減少して
いるので、これもどんどん、せっかくなつくたものなので、どんどん利用できるようお願い
します。

あと、最後の地方創生事業の烏山学ですか。先ほどの課長の答えでは、平成29年度は1年
生を対象にやった。ことしは2年生も対象にやっていると。1・2年生を対象にしているとい
うことで、これは地方創生事業で、七福神プロジェクトでそういう補助をもらっている事業で
やっていますけれども、この先はどういうふうな検討をするかお聞きします。

○議長（沼田邦彦） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） まず、ゆるキャラグランプリにつきましては、減少してい
る中、逆に目立つのではないかとということでございます。これに関しましては、一度、課内
でもよく検討しまして、次年度以降、反映ができれば考えていきたいと思っております。

烏山学に関しましては、これから烏山学、特色ある烏山高校がどのように県内で羽ばたいて
いくかというようなところは重要視しております。したがって、先ほどちょっと答弁でも
触れましたが、烏山高校の若い職員の先生、また、那須烏山市の若手の職員、今後の烏山学
についての意見交換会を予定したいと考えてございます。

これにつきましては、烏山学がこの後どのように継続していくことが市にとってプラスにな

るか、また、烏山高校として魅力ある高校になるか、双方からお互い意見交換をして継続した活動ができるように検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） ただいまの烏山高校生との市政懇談会、場所は35番館という喫茶店ですかね、でございます。

○議長（沼田邦彦） 8番滝口議員。

○8番（滝口貴史） 結局、最後には烏山高校の質問になっているような感じなんですが、烏山学、隣の馬頭高校、那珂川町では那珂川学、大田原では大田原学、同じようなことをどこでもやっているんですね。同じようなことをやっても内容が違うからという話は、もうどこも聞いて、矢板でも矢板の同じようなことを今やっています。それではなくて、その先一步、そういうほかの、これは地方創生事業という感じで、もっともっとほかとの差別化をしないと、烏山高校には来ません。通学補助だけでは来ません。

いつも私、通学補助のことは先ほど言いましたけども、ここから外へ出ていく子供にも補助したほうがよっぽどいいと常々、私は言っています。ですから、烏山高校が魅力あるのには、烏山学という形で、ことしは外側から見ると、私どものロータリークラブもことしは補助を出してどこかへ行ってもらうというお金もあるんですけども、やはり魅力づくり、ほかとの差別化というのを中心に、ほかと同じようなことをやっても烏山高校は難しいかなと思うんですが、課長、いま一度お願いします。

○議長（沼田邦彦） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） ほかの県立高校との差別化、もっと違うような内容についての烏山学の展開というようなところだと思うんですが、先ほどちょっと申し上げたとおり、今後どのような形が……、烏山高校、また、那須烏山市、どういった形がいいのかといったところを今後、若い職員でまず協議していくという点が今後の創造の第一歩だと思っていただければと思っております。

また、烏山高校につきましては、特に普通科だけの高校でございます。その中でこのような烏山学を取り入れたというのは、ほかの自治体の皆さんからは非常に注目されているといった点については御理解願いたいと思います。ほかの県立高校であれば、普通科といった単位だけの中でやられているというようなところではありませんので、烏山学はまさしく普通科が地域課題解決に向けての授業を取り入れてやっているといったところは、非常に効果があり、その効果としては、学校の説明会とかそういったところには保護者も含めてかなり大勢の方が関心を示していらっしゃるというような報告も聞いておりますので、今後の活動を見守っていた

だければと思います。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 9番小堀議員。

○9番（小堀道和） 時間もあれなんですけども、質問は山ほどあるんですけども、時間の関係で考え方を中心に聞きたいので、行財政報告書の中からお聞きしたいと思います。

まず、健康福祉課関係から行きます。ページ111、ここに生活福祉グループの課題が述べてありまして、「平成27年度から開始された生活困窮者自立支援事業の実施については、生活困窮者が生活保護を受給せずとも経済的に自立できるよう就労支援を実施したところ、就労自立した者もあり、今後も関係機関と連携をとりながら実施したい。」と書いてあります。このような支援が本来あるべき姿であって、こういう仕事をやると職員も達成感が出ると思うんですけども、実際に何件ぐらいこれがあったのかということと、今後の取り組みについて、成功事例をふやすための方策を伺います。これはいっぱい応援したいという意味で聞いております。

それと、同じ111ページの課題の中で、高齢いきがい担当の課題の中に、「高齢者であっても支えられる側から何らかの役割を持ち、支える側、生涯現役であり続ける社会へと変わっていくことを市民に周知し、安心して生活できる地域づくりを担っていく。」とありますけども、これは全く同感です。それで、具体的にどんな活動を仕掛けていて、さらにこれからどんな活動をさらに追加して計画しようとしているのか伺います。

それと、ページ112のところには、健康増進グループの課題が載っております。この中で、「健康診査については、各種検診の自己負担額の見直しを行い、受診率向上のために受診勧奨をするとともに若年層の受診者の増加を目的に、インターネット予約システムを試行的に実施した。」とあります。この中で、自己負担額をさらに低くしようとしているのか、幾らにすれば受診率が上がるかというようなことを考えているのか、他の自治体と比べると、かなりうちの市は本当に優遇していると思うんですけども、これを読むと、本当にお金の問題をここで上げているのかというふうなことに疑問を持つんですけども、そのところの考え方。あと、インターネット予約システム、先ほどとダブると思うんですけども、試行した結果、どんなことがわかったのか、これもあわせて伺います。

それと、同じ健康福祉課なんですけども、ページ128に、主ながん検診の対象者及び支出状況の表がついておりまして、乳がん検診以外の5つについて、支出額がそれぞれ大きく昨年に比べて減少しているんですけども、これはどういうことなのか。要は、がん検診が結構、健康マイレージなんかの得点を与えたりしながら、あとは相当支援しているということで、受診率が上がらないとおかしいんじゃないかなと思うんですけども、これだけ市の負担額が減

っているということはどういうことなのか、これからの対策も含めて伺います。

続いて、こども課です。ページ130、ここに子育て支援の課題の中に実施した内容が書いてまして、「平成27年度子ども・子育て支援事業計画における量の見込みを補正するため、子ども・子育て会議を開催し、実態に合わせた数値等について協議を重ねつつ、本計画の一層の推進を図るため、事業等の進捗点検・評価を行った。」とありますけれども、具体的な内容、量の見込み、これを見直してどんなことを変更するのかというのをお聞きいたします。

それと、ページ143から147の表ですけども、保育施設の利用者実績の表があります。市内のゼロから2歳ですね、この実質的な待機児童ってどのぐらいいるんだろうかというのをお聞きすると、149ページ、これはセットでお聞きしますけれども、149ページのところに私立保育園等補助事業の実績、これが掲載されている中で、1歳児担当保育士増員事業費が投入されていますね。これは、投入して担当の保育士さんがふえたのか、これも含めてゼロから2歳の待機児童者というやつに対してどんな効果があらわれているのかというのをお聞きいたします。

続いて、商工観光課にいきます。ページ178に、観光振興グループの課題等が書いてありますけれども、この中に、山あげ祭のおもてなし充実のための実行委員会の活動が紹介されています。ことしの山あげ祭を見ても、まだまだお客さんファーストになっていない点が随分感じられます。例えば、常磐津の語り、市長なんかもやっていますけれども、これはなかなかわかりづらいんですけども、わかってもらえる工夫をすべきではないかという点が、私も受けていますし、私もそう思っています。

また、出し物の間の待っている時間に何の説明もないんですけども、特に感じたのは最終の日ですね。最終の日が結構最後の出し物の間が、本当にずっと待っていても、今、何やっているんだろうというお客さんがいて、この辺、何かの説明ができるようなこととか、こういうことを考える委員会が、今、三森県議会議員がやっているそういう組織になっているんですけども、この組織の中に、第三者というか、お客さん目線でどうなんだろうという人が入れば、もっとよくなるんじゃないかなと思うんですけども、検討に値するんじゃないかと思うんですけども、どうでしょうか。これは、実際の実行委員の人たちにこんな話をすると、私もちょっと話をしたら、そんなこと言わないでビール持ってこいなんて怒られたぐらいなんで、別の組織がいいんじゃないかなと思うんですけども、そういう見直しをぜひすべきだと思うんですけども、どうでしょうか。

それと、環境課、ページ191です。生活環境の整備充実についてという説明がありまして、ごみ収集量が平成29年度が前年より0.2%ふえたとあります。実質的に人口は減っているにもかかわらず、0.2%なので誤差範囲かということはあるんですけども、なぜふえるのか。

この質問、ごみ3R運動の啓発等を推進するとありますけども、本当に真面目にやっているのかなと思う。この質問をしたいのは、ごみ焼却施設を新しくつくらなきゃいけないというときに、どれだけ減らせるかというようなことが大きな課題になってくると思うので、そういう点から考えると、ふえるというのが、本当にどんな活動をしているのかなという疑問を感じます。その辺の見解をお願いいたします。

それと、都市建設課、ページ198、ふれあいの道づくりについて書いてありますけども、実績は13件、1,519万8,328円、この実績ですけども、この制度はとてもいい制度ですよ。これがこれからどういうふうにしていくのか、あとはほとんど希望を吸い取れるような、そういう金額なのか、これってやっぱり市民にPRして、どんどん自分たちも汗を流して、いいまちづくりにしようよという書き込みが、本当にこの仕組みはいいなと思っているので、その辺の考え方ですね。もっとふやすべきなのか、もっとPRすべきなのかという見解を求めます。

それと、学校教育課にいきます。ページ215に、メノモニー市への中学生海外派遣、実績が書いてありますけども、これはお願いなんですけども、ずっと、出すんじゃなくて来てほしいという。そうすると、学校全体の文化が変わります。私も経験しています。これは教育長にお願いなんですけど、ぜひ来るほうを、メノモニー市を対象にする必要はないので、教育長が自分の情熱とやる気で、絶対こしはやるんだ、実現するぞというのがあれば簡単に実現できるんです。なので、教育長の情熱を聞かせてほしいというのが私のお願いです。

次に、生涯学習課です。ページ224のところに、結婚相談活動の表が1行ぐらい載っているんですけども、相変わらず、成立件数欄がないので実績はないのかなと思うんですけども、こしは相談員に若者を入れたり、メンバーが相当変わっているので、この辺でどんな変化が起きているのか、あとうまくいっているような実例が紹介できるようなことがあったら、ぜひお聞かせいただきたい。

それと、最後です。文化振興課、ページ256から258で、野外観察ガイド派遣等の支援事業の欄が出ているんですけども、これはジオパーク関係で小中高、ここには相当力が入っているのがわかりますが、やっぱり一般の人にはまだほとんど、ほとんどというか、なかなか浸透しないんですけども、これを本当に、中途半端なので、職員が負担になっているのかなというのをちょっと感じたりするので、ここを職員の負担も考えたりしながら中途半端でなく、こういう考えでジオパーク関係をやるんだということを明確にすべきではないかなと思うので、その考えをお聞きします。

以上、お答えいただきたいと思います。

○議長（沼田邦彦） 稲葉健康福祉課長。

○健康福祉課長（稲葉節子） 私のほうからは、3点ほどあったかと思います。まず、行財政報告111ページの生活困窮者の自立支援についてでございますが、117ページのほうをごらんいただきたいと思っております。そこの④です。生活困窮者自立支援事業ということで、平成28年度と29年度の実績があります。やはり生活困窮に至る方にはなかなか自分で就労にこぎつけないということがありまして、そういうことを支援するというで何人か就労に結びついている方がございます。具体的に申しますと、履歴書を記入する方法から教えてあげるといような形で携わっております。

今後、就労する場所が、なかなか那須烏山市、少ないものですから、そういう部分の拡充も含めて、この自立支援の方策を広げていきたいというふうに考えております。

それから2点目の高齢いきがい対策については、生きがいを持って高齢者が活動できるようにということで、市も積極的に取り組んでいるわけですが、行財政報告の279ページから280ページですね。こちら、特別会計事業で実施しているものですから、一般会計のほうにはちょっと載ってないんですが、地域の方が地域の高齢者を支えるということで、那須烏山市はふれあいの里事業というのを実施しておりまして、ふれあいの里自体は、地域の方が運営していただいているわけですが、運営するに当たって、前期高齢者の方が大分携わっているということで、生きがいづくりにも、その地域に合った生きがいづくりができているのかなというふうに考えております。

そのふれあいの里も12カ所、それから後ろのほうにいきますと男の遊々クラブというものあるんですけども、男性がなかなか生きがいを見出せなくて、地域にも出ないで、退職して10年ぐらいたってしまおうと介護保険申請をすとか、そういうことが心配されまして、男の遊々クラブというものもついたり、あとは健康長寿セミナー、脳元気教室等、高齢者が積極的に地域に出るような取り組みを実施しているところでございます。

今後、いろんな取り組みを、地域の力をかりながら実施していきたいというふうに考えております。

それからもう1点、検診の自己負担についてでございますけれども、自己負担については、平成29年度に大分見直しを図りましたので、当面、見直しをしていく方法はないんですけども、どうして検診料金が安くなったのかということ。128ページを見ていただきたいと思っております。がん検診の受診状況については㊦、支出状況については㊧ということになっております。自己負担の見直しを図ったということもありますし、胃がん検診等については高齢の方が多くなって胃がん検診をできなくなっているという現状もあるんですけども、伸びているものと伸びていないものとございます。子宮がん、乳がん等については、どちらも伸びております。自己負担のほう、那須烏山市は、それ前まではほとんど費用を取っておりませんでしたし

たので、ここで支出の額が、委託料の負担する額が減っておりますので、人数はふえても、この支出が減ったというような状況になっております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） それではまず、行財政報告書130ページの子ども・子育て会議の関係についてお答えいたします。

これにつきましては、その量の見込みということで、平成27年度から5カ年の計画ということで立てた子ども・子育ての計画の中間年ということで、例えば学童保育等の利用の状況について、計画値と現在の状況が乖離していないかとか、不足していないかとか、そういったものにつきまして、修正というか、中間値の見直しということで、昨年度についてはこの見直しを事務サイドで行って、こちらの会議に諮ったところでございます。

なお、会議のメンバーにつきましては、学識経験者の方や民生委員・児童委員さん、それから市内の私立のほうの園長先生方や保護者の代表の方、その他、それと公募という形で2名の委員さんに入ってもらいまして、14名の委員さんに審議をいただきました。

このほかには、前年度の計画値に対する実績の報告とか、子ども・子育てに関する件についての審議をいただいている会議でございます。

2点目の、待機児童の件につきましては、昨年度はなしということでございました。ゼロ名です。

それと、3点目の149ページの私立保育園の助成の関係で、1歳児の増員の事業の話なんですけど、これについては、通常ですと保育士の配置については0歳児、1歳児は通常3人のお子さんに対して1人ということなんですけど、そこに1名の加配をするということで、3対2にした場合の助成ということで、市内の私立保育園、それから認定こども園で、今回ですと2カ所該当があったということで増員をしたところでございます。その保育士がふえたかという点については、受け皿がふえたかというのには、なかなかつながらない部分はあるのかなと思っております。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸） 私のほうからは、観光振興、山あげ祭の実行委員会についてお答えしたいと思います。

おもてなしの充実を図るために、平成29年度、新たな山あげ祭実行委員会を設立いたしました。これまでの課題でありました食事どころ、駐車場、敷席の円滑な運営に対応してまいったところであります。議員の御質問の常磐津をわかりやすくするような活動、出し物の間の説明、また組織の中に第三者をとというような点につきましては、今後実行委員会、または保存

会等で検討してまいりたいと考えます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 小林環境課長。

○環境課長（小林貞大） 行財政報告書191ページの、一般廃棄物が昨年より0.2%増加した理由は何かという御質問についてお答えします。

同じ行財政報告書の195ページをごらんください。こちらで、平成29年度と28年度のごみの増減の表が一覧になっております。大きくふえておりますのは燃やすごみでございます。この燃やすごみが90トンふえてしまって、1.4%ふえたのは何かというふうな原因の分析はなかなか難しく、できないところでございます。引き続いて、ごみの減量化には努力していきたいと思っておりますので、御理解賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（沼田邦彦） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） 私のほうは、行財政報告の198ページ、⑤ふれあいの道づくり事業についてお答えします。

このとおり、13カ所で1,519万8,328円と決算したんですが、この内容は、13地区の事業ということで、地域の方が事業主体となりまして、それに伴います建設機械のレンタル料、それと工事に伴います資材、そちらを私どものほうで費用負担をして地元を実施してもらうということでございます。

先ほど議員が言った推奨するののかというんですが、現実的に地元の方が費用負担と労力報酬、いろんなケースがありますので、それはちょっと一概に、地域の実情に応じてということで、私どもはあくまでも地域の方がまとめたものに受け身の体制でやらせてもらっているのが現実でございます。

ですから、今年度はまだ取りまとめていないんですが、例年、こんな規模で事業をやっているのが実情でございます。

あと、例えば事業規模が大きくなりますと、地元の方の負担が大変になりますので、年度ごとに細切れにして申請で何とかやっているというのが現実でございます。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 田代教育長。

○教育長（田代和義） それでは、行財政報告書の215ページ、中学生の海外派遣事業ということで、一般質問等でもお話がありましたけれども、25年経過したということで、最初、当初の段階、南那須町時代にウィスコンシン州から生徒が来たということは一、二度あったようですけれども、それ以降は本市のほうから派遣すると。もちろん、最初の段階から子供たちが行ったというわけではありませんので、そういった交流を続けてきております。

議員のおっしゃるような、あちらの生徒を、ウィスコンシン州に限らずということではありますが、本市に来てもらってはいかがかということ、これについても、前お答えしましたように、来るのであればウェルカムで全面的に協力したいという気持ちはあるんですが、こちらで全部旅費その他を持ってというのは、今のところは考えておりません。

ただ、近隣のロータリークラブその他で派遣したり、また呼んだりという部分もございますので、そういった外部団体との連携をとりながら、そういったことができれば、またやってまいりたいというふうには考えております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 私のほうからは、同じく行財政報告書224ページ、①結婚相談活動について、結婚推進委員さんのほうに若い方が入ったので、効果はどうかということ、成婚率、それから実例があれば教えてほしいということだったと思います。

申しわけございませんが、推進委員さんによる成婚はまだことしも実例はございません。

ただ、去年の事業ではないんですが、その前なんです、その上の⑦のふれあい交流事業のほうの横枕出逢い創造プロジェクトというふうなものでは、聞いたところによると、一昨年度知り合った方々が1組成婚したというお話は聞きました。ただ、どちらのほうに住んでらっしゃるかまでは、ちょっと確認はしていません。

議員おっしゃるように、ことしは、上に書いてありますカッシーレさんと横枕青年団さんのほうから5人ほど新しく入っていただきまして、結婚相談所の会議の折りに、やっぱり新しいというか、若い視点で、いろいろと事業等について御意見をお伺いしたりと。活動そのものも任せきりじゃなくて自分たちでやったらどうかというような意見も出てございます。ただ、まだ1年目でございますので、これだけすばらしい実績がありましたというのはまだまだこれからになると思いますので、御承知おきいただきたいと思います。ありがとうございます。よろしく申し上げます。

○議長（沼田邦彦） 糸井文化振興課長。

○文化振興課長（糸井美智子） 私のほうからは、ジオパーク構想推進事業ですね、こちらにつきましてやっている内容が中途半端じゃないかというような御指摘でございます。また、その活動の方針を明確にということでございますが、御存じのとおり、昨年4月にジオパークの認定に向けた申請を出し、5月に審査に行ってきたところでございます。その結果は、こてんこてんだったということは、皆さん、御承知のとおりでございます。

それを受けまして、昨年12月に推進協議会を開きまして、改めて活動方針等につきまして話し合った結果、その方針につきましては、各種社会情勢や財源状況などを見ながら、ジオ

パークの理念を踏まえつつ、見直しを図りながら、長期的視野に立って正会員登録を目指すというようなことで、具体的には、ジオパーク活動の基本である人材育成と郷土愛の醸成、そのために、内容的に市内の児童生徒への継続的な学習機会をふやす。それから、ジオガイドの養成及び認定制度などの確立、強化を図るということを決定しております。どうぞ御理解をいただきたいと思います。

○議長（沼田邦彦） 9番小堀議員。

○9番（小堀道和） 大体こういうふうな状態になるだろうと思いつつながら、希望を出したので、それぞれよろしくお願ひしたいんですけども、その中でも、ごみのほう、これはちょっと不満なので、一生懸命やってください。

あと、教育長のやつは宿題ですので、これはぐっと思ってお願ひしたいということと、あとは、お願ひしたいという話だったので、不満のあるときには、また担当のところにお伺ひしますので、よろしくお願ひします。

以上です。

○議長（沼田邦彦） ここで、暫時休憩いたします。再開を午後2時15分といたします。

休憩 午後 2時06分

再開 午後 2時15分

○議長（沼田邦彦） 休憩前に引き続き会議を開きます。

10番相馬議員。

○10番（相馬正典） それでは、8件ほどお願ひします。簡潔にしますので、簡潔な答弁でお願ひいたします。

まず、行財政報告書29ページに、報告書なので、お金の話じゃなくて、田野倉地内における太陽光発電施設というのがございます。これは、太陽光のケーブルを敷設するというのでちらっと聞いたんですけども、田野倉地内から三箇西野方面の市道の下をケーブルが通るといふ話を聞きました。その使用に際して、市は、業者との間にどのような協議があったのか、また市道の真ん中を通るといふことですので、交通に支障がないのかとか、賃借料があるのかとか、そういうことをちょっとお知らせいただきたいというふうに思います。

次が、決算書です。47ページに、人事評価システム運用開始前作業業務というのがございます。平成29年度にシステムを導入し、運用がもう既に行われていると思いますが、導入後の効果と評価に基づく任用への反映状況についてお知らせいただきたいと思います。

続きまして、決算書55ページ、こちらに電子入札システムリース料というのがございます。平成29年度における稼働実績について伺います。

続きまして、61ページ、那須烏山市第2次総合計画策定支援業務というのがございます。以前に示された第2次総合計画策定方針には、旧町単位に市政懇談会を開催し、市民からの幅広い意見を求めるというふうに聞いていたと思うんですけども、総合計画策定に当たって、市政懇談会の開催状況についてお知らせいただきたいと思います。

続いて、68ページ、都市イメージ調査業務、31万1,040円、これ、どのような事業なんでしょうか。そして、どのような結果が得られて、どう反映されているのか伺いたいと思います。

続いて、137ページ、J Aなす南共同乾燥調整施設、これは補助金なんですけども、678万4,000円計上していますね。これなんですけども、建設事業負担金、補助金ですね、市が補助する理由について、ちょっと伺いたいと思います。

あと2点です。153ページ、那須烏山商工会第8弾商品券、わくわく商品券ですね、1,490万何がし、これなんですけども、ことは非常に暑い夏で、炎天下、購入に相当な長蛇の列ができました。最終的には、買えない方が相当数いました。やはり、去年もその前も思ったんですけども、販売方法について、ただ単純に並んでいただいて早いもの勝ちで売るというのはいかがなものかなというふうに思っているんです。これについてももう1回再考される意思があるかどうか。例えば、抽選にするとか、そういうことをやって並ぶ方の負担をちょっと減らしたほうがよろしいんじゃないかなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

最後に、決算書の179ページ、話題になっております緊急告知ラジオシステム業務、648万円です。これの、すいません、ちょっと似たような質問ですけども、現状の利用状況はどうか伺いたいというふうに思います。

以上、8点、よろしく申し上げます。

○議長（沼田邦彦） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） 私のほうから、1番目の田野倉地内における太陽光発電施設の件について、私ども都市建設課のほうは、道路管理者として、こちらのほうの協議にかかわっております。議員が御存じのように、大里に発電所をつくりまして、田野倉を経由して最終的に三箇に行くんですが、そのケーブルは、いわゆる東京電力、NTT等と同じように、私どもの市道の中にケーブルを埋設するというので、こちら、許認可は道路法の第32条で私どものほうが許認可権を持っております。こちら、市道だけでなく県道もありますので、それを一括して烏山土木事務所と事業者を交えまして協議が済みまして、平成29年の12月21日付け、許可を下ろしまして、これはまさしく今現在、施工している最中でございます。

一番難工事になりますのは、ちょうど烏山土木事務所が進めているJR烏山線の田野倉アンダーの交差点の区域内を通りますので、その工事に合わせて、現在やっております。こちら、

全て占用条件等をクリアしておりますし基準も満たしておりますので、それとあと、この事業主の那須烏山ソーラーという会社は大変、私が言うのもおかしいんですが、ちゃんとした、きちんとした会社で、地元説明会等を重ねて、ずっと今現在進行しているんですが、御存じのように、狭い道を通して地元の方に迷惑をかけながらやっているんですが、主立った苦情等は1件もございませんで、順調にいつている状況でございます。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） 私のほうでは、まず、決算書の47ページの人事評価システムの関係でございます。

昨年度導入しまして、年度末に導入という形になったものですから、集計からになりました。集計作業もスムーズにいつて、今年度の任用関係には、本当に悪い方だけが昇給に対してちょっと影響が出たところでございます。どうしても、まだ人事評価制度そのものが、甘辛がちょっと大きくて、その辺が、正式に運用するにはちょっとまだ精度が足りないかなというような状況でございますので、もう少し時間を見て任用等については本格的に導入していきたいと考えています。

また、このデータをシステムに入れることによりまして、これから毎年のデータが、個人のデータが蓄積されていきますので、そういったものを今後も反映させていきたいと考えているところでございます。

それと、電子入札システムのほうでございます。こちら、昨年度の下半期になりますか、10月の開札から本格的な導入になったわけでございますが、昨年度、全部の入札が78件のうち31件が電子入札となりました。電子入札を導入した後はほとんどが電子入札で、紙で入札が2件、あとは郵送の入札が3件の5件だけが導入後は電子入札以外の入札ということになっております。

それと、最後の緊急告知ラジオにつきましては、先ほどもありましたように、今のところ、行政区長、副行政区長、後は民生委員・児童委員、あとは議員の皆さんのほうに配付で、試行的に配付しているんですが、なかなか利用状況についてはかんばしくないというような話で、毎週火曜日に放送を持っているんですが、それ以外の放送も聞けるようになっているんですが、実際、放送を聞いている方はいらっしやらないようです。

ただ、これは電源を入れて、電源というかコンセントだけ入れておいていただければ、もしJアラートとか何か緊急的なものがあれば強制的に放送が行くようになった契約でございますので、今のところ、そういった事例がないものですから、その辺のメリットがまだ見えてきていないのが現状でございます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） 決算書61ページの総合計画支援業務でございますが、支援をいただきました内容につきましては、計画の構想、また計画作成業務、データ収集等の支援の業務を委託したものでございます。議員お尋ねの旧町単位による市政懇談会につきましては、方針には示したんですが、現実的にはできなかったというのがありまして、総合政策審議会での諮問、またパブリックコメントの実施、あと平成27年11月に市民を対象とした意向調査等を行いましたので、そちらを反映させたということでございます。市政懇談会については開催しておりません。

○議長（沼田邦彦） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） 私からは、先ほど相馬議員からは68ページとありましたが、都市イメージ調査業務は63ページになりますので、そちらのほうの御説明をさせていただきたいと思います。

昨今、魅力度ランキング、住みやすさランキング、そういった言葉で、よく新聞等出てきておりますが、栃木県、那須烏山市、ともに下位であることは、皆さん、御存じかと思えます。まちづくり課としては、まず魅力度がある前に、那須烏山市がどの程度認知されているのか、その認知といった観点から調査をしたものがこれでございます。

結果的に申し上げますと、1,000市区町村対象に行った中では那須烏山市は823位、という順位でございました。ちなみに、栃木県内でいいますと、1位が日光市、続いて宇都宮市、次に栃木市、それが認知度ランキング上位3でございます。日光市で全国19位、宇都宮市で全国59位、栃木市で全国210位、その中で那須烏山市は823位であったということでございます。

したがって、これらの認知度の低さから、これから魅力度を上げていくのには、まず那須烏山市を知ってもらう、そこがまず基本ではないかという結論に至りました。したがって、今後、那須烏山市というブランド名をどのように戦略的に生かしていくか、それを検討する機会を設けまして、新年度、来年度以降になってしまうかと思えますが、現在、どのような方法でブランド戦略がうまくいくのか。ブランド戦略というと、宇都宮市が非常に力を入れているのは、皆さん、御存じかと思えます。どのような形で宇都宮市に近づけるようなブランド戦略ができるか、市挙げて検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） 決算書137ページ、JAなす南共同乾燥調整施設の市の負担す

る理由についてお答えします。

平成28年度から協議を進めてまいりましたJAの乾燥施設でございますが、市のほうに建議・要望書が28年12月に提出がございました。総事業費約6億円ということで、国の補助2分の1ということでございます。市のほうに要望がありましたので、那珂川町と協議をした結果、国庫補助金2億5,000万円に対する1割ということで協議がなされました。

その負担割合については、那珂川町と協議をいたしまして、建設地は、那珂川町白久でございますから、那珂川町が建設地で負担金は当然多くございます。本市については、その負担割合のうち、水田面積、これを勘案した負担割合になってございます。本市については、決算にありますとおり678万4,000円という内訳でございます。

ちなみに、もう1つの理由は、当然、七合地区、興野地区が隣接しておりますので、今後、那珂川町の白久ライスセンターには、多くの本地区からも農家が搬送するということも見込まれますので、そういった理由から、負担割合を那珂川町と協議した結果でございます。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸） 私のほうからは、決算書153ページ、那須烏山商工会第8弾商品券についてお答えいたします。

販売方法についてですが、本年度は7月1日に実施してしまいましたので、次年度以降の販売につきまして、商工会のほうに市として提言していきたいと考えます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 10番相馬議員。

○10番（相馬正典） おおむね回答いただきましてありがとうございます。まず、第2回目ということで、先ほどの太陽光の話なんですけども、先ほど協議をされた実績はわかりました。これについて、賃料とかいうのは発生していないのかというのを再度伺います。

あと、人事評価システム、今後、しっかり運用をお願いしていきたいなというふうに思っています。

あと、那須烏山市第2次総合計画策定事業、これは市政懇談会はできていないけれども、ほかのことで代替でやっているということで、やはりもっと市民の声を幅広く聞く機会をぜひつくっていただきたいというふうに要望します。

都市イメージ調査業務、これにつきましては、今後に期待ということで了解しました。

乾燥施設、了解しました。

あと、商工会で行っていますわくわく商品券ですが、何とか、購入する方に負担にならないような方策を、ぜひ指導していただきたいというふうに思います。

あと、質問がもう1つ、緊急告知ラジオシステム業務なんですけれども、利用者からの意見

を集約したり、メリットとかデメリットとかの、そういうふうなことをまとめているのかどうか、最初の質問と2点お願いしたいと思います。

○議長（沼田邦彦） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） すいません、第1回目のときに答弁漏れをしました。

賃料というわけじゃなくて、こちら、道路法にて道路占用料という金額が発生しております。こちら、ケーブルが2本ありまして、延べ延長が4.2キロということで、年間約21万円ほど、道路占用料として、私どものほうに納付を受けております。

○議長（沼田邦彦） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） 緊急告知ラジオについては、ことしの2月に、配付者に対してアンケート調査を行ったところでございます。回収率につきましては、78.3%の回収率でございました。

その中で、緊急告知ラジオを実際設置しているのかという項目がございまして、設置しているというのが71.4%でございました。

また、この中で、全般について自由回答なんですけど、御意見をということであったんですが、その中で、緊急告知ラジオを肯定する意見、こちらについては11件、緊急告知ラジオを否定する意見につきましては40件ほどの意見がございまして、まず、肯定するほうにつきましては、やっぱり大規模災害時の情報の1つとしては利用にいいのかなというような意見がございました。否定するほうにつきましては、実際、在宅していない方が、持っている方が多くて、日中の放送は全然聞けていないというのが現状でございました。ラジオでなくても、他の媒体での情報配信のほうが有効的じゃないかというような意見が多く寄せられたところでございます。

これらをいろいろ検討した中で、前からうちのほうでお話ししたように、これからの防災行政関係の情報発信については、新たなシステムのほうで検討していくということで進めていくことにしたいと思っております。

○議長（沼田邦彦） 10番相馬議員。

○10番（相馬正典） 質問ではないんですけども、緊急告知ラジオは、私ども3月に返納しまして、返してくれというので返しました。それきり、ですから、多分、大多数の議員は持っていないんじゃないかと思うんですけども、その辺は対処していただければと思います。よろしく申し上げます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 11番田島議員。

○11番（田島信二） それじゃ、5点ほど質問します。

145ページ、地籍調査事業費ですか、これは、今、どの辺をやっているのか、あと何年ぐらいかかるのか、年間で何ヘクタールぐらいできるのか、大体のことで教えてください。

そして、27ページ、松くい虫補助金です。50万円とありますけど、50万円ぐらいで足りるのか足りないのか、どの地域で発生しているのか。あと、枯れた木は伐採してどのくらいあるのか、知っている範囲でお願いします。

3番目に、61ページ、JR烏山線沿線まちづくり推進事業500万円とありますが、この内容をお知らせください。

あと、4番目、143ページ、新食肉センター、県畜産公社、これ、補助金と、出資金だと思いますが、いつごろの完成予定なのか、よろしく願いいたします。

あと、149ページ、イノシシ捕獲とか巻狩りとか書いてある、南那須分会と烏山分会と分かれていますけど、何でこれは分かれていますのか。一緒にしたほうがいいんじゃないかと思えますけど、そのことをお願いいたします。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） 私のほうから、決算書の144ページ、145ページ、地籍調査費についてお答え申し上げます。

現在、進捗状況は、那須烏山市全体の78.7%ほど終了しております。こちら、進捗状況は面積に換算しますと78.7%完了しております。残りにつきましては21%ほどあるんですが、現在の事業の進捗によりますと、ちょっと残事業につきましては見込みがついていない状況でございます。

これはなぜかといいますと、これは当然国からの補助金等でやっているんですが、特別な事情がない地域についての、今、予算のつき具合が悪いということです。そちら、特別な事情というのは、例えば海岸の津波対策とか、あとは地域の防災計画、いわゆるほかの事業と、ハード事業と組み合わせをしないと、地籍単独事業だと予算のつき具合が悪いということで、ちょっと今後の展開はわからない状況でございます。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 菊池農政課長。

○農政課長（菊池義夫） 決算書27ページの松くい虫の補助金にかかわる部分でございますが、決算書、歳出のほうを見ただけですと、149ページに当たります。下のほうになりますが、松くい虫防除事業費で記載があると思えますが、この補助金は、松くい虫防除事業（衛生伐）というところの事業に該当します。50万円でございますが、箇所については小木須の花立峠の衛生伐を行ったものでございまして、伐採の量とかその辺についてはちょっと把

握しておりませんが、今、松くい虫は非常に、余り事業も少なく、行っていますのは、今申し上げました小木須の衛生伐と、それから市内学校の樹幹注入といいまして、荒川小学校の松を樹幹注入させていただいているという小規模の事業で、今、進めております。

それから、決算書143ページの新食肉センターの整備事業でございますが、御存じのとおり、県内3カ所の食肉センターを、老朽化に伴って1カ所に集約をして、芳賀の稲毛田に建設を今進めておりますが、完成については平成32年度ということで工事が進められているようでございます。

それから、149ページのイノシシの関係でございますが、烏山と南那須に何で分かれているのかという御質問でございますが、合併前から猟友会はそれぞれ烏山と南那須で活動されておりましたから、いろんな守備範囲とか、それぞれ地の利を把握しているというところから、それぞれがそれぞれのところでやられたと思いますが、今も現在、烏山分会、南那須分会とそれぞれが活動しておりますので、統合につきましては、今後の確かに検討かなと思っておりますので、話し合っていきたいと思っております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） 決算書61ページのJR烏山線沿線まちづくり推進協議会でございますが、この500万円につきましては、高根沢町と協議会を構成しておりまして、高根沢町と那須烏山市で500万円ずつ出し合って事業費を充てるということでございます。この協議会の活動につきましては、昨年度、ホームページを作成したり小冊子を作成、またサイクルマップ等も作成して各コンビニ等に置いてもらったり、新生銀行の本店のほうに烏山マルシェとして那須烏山市のPRに行ったりということで活動してございます。

以上です。

○11番（田島信二） 結構です。了解しました。

○議長（沼田邦彦） 13番久保居議員。

○13番（久保居光一郎） 12番を飛ばさせていただいて13番の久保居でございます。

私は、行財政報告書だけから質問をさせていただきたいと思えます。

まず、第1点目、全部で5項目ぐらい質問したいと思うんですが、初めに23ページ、行財政報告書の23ページです。総合政策課の総合計画の中の文書の中で、基本理念は第1次総合計画の「みんなの知恵と協働による“ひかり輝く”まちづくり」、これは10年前、11年前ですか、つくった第1次総合計画のキャッチコピーだと思うんですが、これを継承しと書いてあるんですけども、継承し、将来像を「地域の魅力と活力にあふれる暮らしやすいまち“那須烏山市”」としましたと書いてあるんですけども、これはどっちがどっちでも構わないし、な

ぜこれを継承する必要があるのか、私、その辺もわからないんですけど、例えば、この辺は行政的な、こういうことを言うては大変失礼かと思うんですが、言葉遊びの1つかなというふうに、私はずっと思っているんですけども、「みんなの知恵と協働による“ひかり輝く”まちづくり」に基づく、この基本理念に基づいて、この10年間、なし得た代表的な事業とか事例とか、そういうのをひな壇の中で、課長さんの中で一、二個挙げられるものがあつたらば、ちょっと挙げていただきたいなと思います。これは、担当課長だけじゃなくて、ひな壇にいる課長さん全部に聞きたいと思います。

2番目、48ページ、まちづくり課のデマンド交通についてであります。一昨年は、デマンド交通の予約して利用された方が1万9,015人で、平成29年度の決算では1万9,736人、委託料が、一昨年場合は、私、委託料を利用人数で割ったんですけども、一昨年は1人当たり557円、平成29年度は1万9,736人ですから720人ぐらい、余分に一昨年よりふえましたけども、予約業務は642円に跳ね上がっております。1件当たり84円高くなっているわけです。予約業務というのは、電話の受付業務ですよ。この辺のところも、川俣市長も先ほどの総合計画の中にもうたっていますけども、厳しい財政状況の建て直しということも言ってらっしゃるわけで、そろそろ今度は来年度の、平成31年度の予算に向けて、本当に川俣市政のもとで新しい予算組みをされるのかと思うんですが、各課にわたって、今やっている行政事業のコストの見直し、それから、その成果、事業成果の検証といえますか、それを見直す必要があるんじゃないかなというふうに思います。

そういう点から、このデマンド交通の予約委託料、1人当たり557円からさらに昨年は84円高い642円になっている。これが、本当に正当な値段なのか、ほかの市町村、デマンド交通をやっているほかの自治体なんかも参考にしながら、そういうことも検証する必要があるんじゃないかと、私は、全般的にそうですけども、そう思いますけれども、その辺についてお答えをいただきたいと思います。

それから3点目が、企業立地奨励金、これは182ページです。企業立地奨励金も、平成27年度は2,323万4,000円、28年度が7,124万6,000円、29年度は1億3,713万9,000円と、だんだん上がってきているわけでございます。これは、先ほど相馬議員からも質問ありましたけれども、太陽光の事業に多く使われているのかなというふうに思います。先ほどの相馬議員の質問と同じように、私も、市内にいろんな太陽光の施設ができて、地元の方にも、いろいろ何らかの形で迷惑をかけているんじゃないかなというふうに思っております。この件について、このお金を出しているところは商工観光課、それからこれに関連するところが環境課あたりもそうだと思うし、農政課や総務課なんかも関連してくるんだと思うんですけども、今回、西日本地区の災害とか、それから北海道胆振東部地震で、停電

して大変困っているという話でございます。本市においては、元ゴルフ場の東宇都宮カントリークラブだったところなんかも太陽光になっている。そのほかたくさんなっているわけですが、前に担当課長に聞いたらば、我が市が震災で停電になったときに、市に今太陽光発電のところがいっぱいありますけれども、市にそのときに配電してくれる業者は何カ所あるのかと聞いたらば、旧七合中学校にあるところだけだということでございます。その電気のキャパはどのくらいなんだと聞いたらば、七合地区の全体になるのか一部になるのか、その辺の充電しかできないということでもありますけれども、これだけ大小の太陽光の発電事業所をうちのほうは抱えているわけですから、市長、いざそういううちのほう震災になったらば、できれば隣接の市町まであわせて、いざこういう停電なんかの場合には配電していただけるような協定を結ぶようなことはできるかどうか、それについて伺いたいと思います。

それから4番目は、先ほど、これも相馬議員からございましたわくわく商品券についてであります。毎年1,500万円ぐらい市から補助金を出しているわけでもありますけれども、実際にこれが使われている内容を見ますと、大手企業に流れていくのが67%ぐらいなのかなと。一般の商工会の会員さんの企業に流れていくのは三十数%であるのかなと。炎天下に並んで、一瞬の間に売り切れてしまうということで、私も何人か、わくわく商品券を販売する事業所さんを歩いて聞いたんですが、あっても迷惑であって、別になくてもいいんだというような人もいるわけであります。こういうのも、先ほどのデマンド交通の予約業務のコストではありませんけれども、どれだけの商工会員に対しての事業成果があるのか、そういうことも、行政コスト削減の意味から、もう1度見直すべきではないのか。それから、今、益子でやっている益子の地域通貨ですね、ああいうことも再検討すべきではないのかというふうに、私は考えておりますが、その辺についての所感を、担当課長でもどなたでも結構です、お願いいたします。

それから5点目が、これも小堀議員もさっき質問されていたと思うんですが、山あげ祭に関するところであります。一昨年度の平成28年度は、山あげ祭の観光入り込み数が10万人、29年度が12万人ということでございますが、この数は、どこの機関がどのような手法で調査しているのか。また、この10万人、12万人来るということは、どのくらいの経済効果があるのか、その辺の調査方法とか経済効果なども検証しているのであればお聞きしたいと。わからなければ結構でございます。

山あげ祭、それから山あげ会館、そういう関係のあれで、合併してからも恐らく改築、それからついこの間の大規模改修、いろんなあれから指定管理から全部入れると、山あげ祭、山あげ会館に関する費用というのは、恐らく10億円以上かかっているんじゃないのかなと思うんですが、この辺をもう一度しっかり見直してかかっているかないと、せっかくユネスコ無形文化遺産登録になっても、そのチャンスを逃してしまうんじゃないのかと。私は、本当に皆さん、

職員の方、一生懸命やってらっしゃいますけれども、いろんなことをやり過ぎて、みんな中途半端で終わっている、むしろ事業を畳むことが大事だと思うんですが、その辺について、これは市長にもお伺いしたいし、担当課長のほうからも伺いたいと思います。

まず、1回目です。

○議長（沼田邦彦） 川俣市長。

○市長（川俣純子） 久保居議員が全員の課長にと言われましたが、お時間もあると思いますので、私のほうで一括で答えさせていただきます。

まず、今回、第2次総合計画を決めました。さすがに、10年間、私は議員の側にいましたので、考え方がちょっと違うかもしれません。まだ私自身としての検証としましては個人的な意見しかありませんので、今後、課長の皆さんとともに、各課で意見を出してもらってまとめられるようにしていきたいと思います。

あと、次に、太陽光発電ですが、今のところ、配線とかそういうもので直接市民が、発電を使えるということは、今のところ、配線的に難しいそうです。その辺は、今回の災害を見て何か対応策があるようでしたら、東京電力を含め、そして企業を含めて考えが進められるような方向になれば一番いいなと思っていますので、ちょっとその辺はお時間をいただきたいと思います。

あと最後の山あげ祭ですが、私自身も携わっておりますので、本当に金食い虫かなと思うときが何度もあります。もう少し自分自身で大人になってほしいと、山あげ祭。もう450年続いていますけど、それをまだ400年前かなと思うようなものもあります。ただ、昭和の初期に、確かにトラックを使っただけで10回の場所でできたと喜んでいる感想を見たこともあります。450年の間にいろいろ進展をし、改変し、そして新しいやり方を常に入れてきたんだと思います。

ところが、ここ二、三十年はほぼ変わっていません。逆に言ったら、もう少し変革ができるのではないかと私自身思って今意見を言っています。ただ、この壁は大き過ぎて、とてもじゃないですけど、1年や2年では改革できないかもしれないので、少しずつ進めていきたいとは思っております。何ととっても450年を笠に着られたら誰も勝てないと思いますので、それを徐々に変えていくことが私たちの仕事かなとも思っています。ただ、運営している若い衆の皆さんも、年齢とともに自分のランクが変わると意見が変わってきたりもしますので、その辺も、よく一緒に協議しながら考えて、本当に残せる、そして、変な話ですけど、金のもうかる地域振興に、観光にしていきたいなと思っておりますので、皆さんのお知恵がありましたら、ぜひともおかししていただきたいと思いますし、今後、皆さん、今回もですけど、ああいう駅のお出迎えとか、そういういろんな意味でパレードのときに一緒に歩いてくださったり、観光

資源にいつも協力していただいていますので、より一層の御意見、そして活動をともにしていきたいなと思いますので、よろしく願いいたします。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） デマンドを含む全体的な見直しということで、私のほうからお答え申し上げます。

コスト見直し等の御意見でございます。当然な話だと思います。また、来年10月からは消費税の見直しがされるということもありまして、総合政策課としましては、今議会終わった後、来年に向けて実施計画のヒアリングを各課全部予定してございます。その中で、いわゆる川俣市政になって本格的な予算編成だろうというふうに私も思っておりますので、思い切った改革ができるかどうかわかりませんが、そういうつもりで予算編成に臨んでいきたいというふうに思っております。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸） 私のほうからは、182ページ、企業立地奨励金についてお答えいたします。

企業立地奨励金につきましては、平成29年度33件、そのうち太陽光が30件ということで、かなりの額を太陽光発電のほうに奨励金として出しております。

○議長（沼田邦彦） 小林環境課長。

○環境課長（小林貞大） 太陽光発電施設の電気が使えないかという御質問については、市長の答えたとおりでございます。実際、太陽光で発電したものにつきましても、東京電力のほうで電源が安定していないところにはつなげないという形になりますので、このような大きい災害になりますと、それぞれが停電してもらってとめてもらうという形になります。旧七合中学校の太陽光発電につきましては、ポータブルの電気設備を10個ほど用意してありまして、それを貸し出すことができるということです。地域に電源を持っていくようなことは困難でございます。多少、市のほうでも補助しました家庭用の太陽光発電ですと、自力運転というのがありまして、やることできれば1,500ワットぐらいを出すことはできるんですが、実際、設置した家庭だけで使うのが精一杯ではないかと思われまます。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸） 続きまして、わくわく商品券の関係についてお答えします。

わくわく商品券につきましては、平成29年度で第8回ということでありまます。今年度は7月1日に第9回目ということで発売しております。来年の第10回に向けては、先ほどの販売状況も含めまして、地域振興券等の検討も含めまして、商工会のほうに指導してまいりたいと考えまます。

次に、山あげ祭のほうにお答えしたいと思います。平成29年度、山あげ祭の人出が12万人という集計をいたしました。本市における集計方法につきましては、担当部署による目視による方法で確認しております。過去の人出を参照に、平成29年度は大屋台のパレードがありましたので、12万人としたところであります。

経済効果のほうにつきましては、平成29年度における山あげ祭につきましては、イートスペースのほうを設置しまして、売り上げが約800万円ほどありました。これらにつきましては、1つの経済効果と判断しております。

以上になります。

○議長（沼田邦彦） 13番久保居議員。

○13番（久保居光一郎） 私、5項目についていろいろ能書きを入れながら質問したんですが、市長の力強い答弁を聞いて、大体了解いたしました。まだ川俣市長になったばかりですから、今回の決算については、私もあんまりそうは突っ込まないでおいたほうがいいのかなど。

ただ、1つ、商品券は、そろそろ考え時期だと。地域通貨で、地域通貨と商品券というのは、商品券は1回使えばそれきり使用に回せません。地域通貨であれば、1年の間であれば10回転も、何回転もできるわけですね。だから、1,000万円動かしても1億円の効果があるし、1億円動かせば、10回転すれば10億円の効果がある。そういうところから、そろそろそういうことも研究しなければだめだと。

ただ、先ほども言いましたように、慢性的に、去年もやったからとやっていたのでは、いつまでたってもそういう事業をカットすることができない。ずっと今まで、私は12年間、大谷市政の功罪を考えてみると、一生懸命やってはくれましたけれども、ややもするとトップダウンで、あれもこれも、あれもこれもという形でどんどんふえてきちゃった。それを何とかしなくちゃならないということで市長になられたのが川俣市長だというふうに私は思っております。なったばかりであれもこれもできません。ですから、私も、じっと川俣市長の手腕を見ているわけで、先ほどの力強い答弁をいただいたので、あ、これならば、川俣市長、やってくれるのかなという期待も持ったわけでありまして。とにかく、今、職員の皆さん、いろいろ答弁はしていただきますが、みんな暇でしようがない課はないと思うんです。みんな忙しいと思うんです。いろんなことを背負っていますから、いろんな事業を。11名の議員、どなたも質問されていたんですが、いろんな事業について質問される。それについて全部答えなくちゃならない。中には、やっぱり、去年も同じようなことをやった、おとしも同じようなことをやった、同じような予算つけてたらたらやっているというようなことを、私は多々あると思います。それを、毎年、担当課の課長が何とかうまく答弁して、この決算を我々もまた通しちゃっているというようなことであると思いますので、もうそういう時代じゃないです。あと10年もすれば、私

は、このまちは相当厳しくなっていくなと思っていますから、そういう危機感を持って、無理なことは逆にやらない。いろんなことも、今までやってきたものをいかに少なくするかと。それが本当の集中と選択だと思いますので、そういうことも踏まえてやっていただければ結構でございます。

私は、答弁を求めません。終わりです。

○議長（沼田邦彦） ここで暫時休憩いたします。再開を午後3時15分といたします。

休憩 午後 3時04分

再開 午後 3時14分

○議長（沼田邦彦） 休憩前に引き続き会議を開きます。

17番平塚議員。

○17番（平塚英教） 順序よくが一番いいんですが、中山さんがいっぱい用意しておりますので、少しでも減るように前もってやりたいと思いますので、よろしくお願いします。

平成29年度的那須烏山市の決算でございますが、まず、38、39ページです。収入未済額が5億7,992万7,111円あるということで、不納欠損が1,704万3,131円ということでございます。これらについては、さまざまあるわけですが、毎年の質問になって申しわけございませんが、市民税の個人、法人の現年課税分と滞納繰り越し分の内容、さらには固定資産税の現年課税分と滞納繰り越し分、さらには軽自動車の現年課税分と滞納繰り越し分ですね、そして入湯税の現年課税分、これらについて、その件数とか内容についてお聞きしたいと思います。

ただ、時間が限られておりますので、それぞれの課にまいりますので、そこで細かな資料を出していただければいいかなと、こんなふう考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さらには、国民健康保険税なんですが、これについても、収入未済額が1億6,632万6,102円と、不納欠損額が1,130万9,236円というふうにあります。その中身についてお知らせをいただきたいなというふうに思います。

さらには、後期高齢者医療、これについても、313ページですが、後期高齢者の収入未済額、不納欠損額、現年分と滞納繰り越し分ですね、この内容について説明をお願いしたいと思います。

さらには、介護保険ですね、それについても329ページにありますが、介護保険の、ここでちょっと、これはここまで答えていただきましたんですけども、収入未済額が831万4,033円、不納欠損額が101万4,600円というふうにあります。現年度分、特別徴

収保険料というのが三角になってるんです。収入未済額が。27万9,100円ですね、これがなぜマイナスになっているのか。その下に、現年課税分の普通徴収保険料並びに滞納繰り越し分の普通徴収保険料というのがありますが、これは後で詳細な説明をお願いしたいと思うんですが、どうしてこれだけ収入未済額がマイナスになっているのか、現年度分特別徴収保険料のマイナス分についての説明をお願いいたします。

2つ目でございますが、今度は行財政報告書になりますけれども、公共交通です。これについていろいろやられているんですが、213ページです。烏山高校の通学補助交付事業というのは、教育関係ということで別立てにはなっているんですね。烏山線等を利用されている生徒を、烏山駅前から烏山高校のほうに送迎をすると、こういうふうになっているんだと思うんですが、駅前の方々にお聞きしましたところ、烏山駅前のバスの停留所というんですか、バス停ね、そこはいわゆる烏山駅前多目的広場の真ん中であって、雨が降っても雪が降っても、その広いところで待っているということなので、傘を差していても、降雨で跳ね返ったものが足元にきてびしょびしょになっているという光景を見ているそうです。これについては、その手前の右側に、駅前のそば店といったらいいのか案内所といったらいいのか、あるんです。ここにバス停を移していただければ、屋根もありますので、駅の真ん前なので助かるというようなことになっていますので、その辺の改善が図れないかどうか、ぜひお願いしたいなというふうに思います。

3つ目は、監査委員の決算並びに基金運用状況審査意見書の27ページにいろいろと載っているんですが、これが行財政報告書ではどこに載っているんだろうと思って一生懸命調べたんですが、38ページ、ここに一般会計財産の状況というのがあるんです。それで、基金ということで、ずっと列記されているんですが、その中で、銀行預金のほかに有価証券というのがまず財政調整基金に、これは1,000万円あると。それと、下のほうにいて、土地開発基金、金額では6,157万1,000円と。そのほかに、面積として3,159平米というふうにあるんですが、監査委員の報告書では、ごめんなさい、土地のほうも面積ですね。面積のかな、金額のかな。残高だから金額だね。金額のほかに3,159平米の土地があると、こういう理解でいいんだと思うんですが、これはどういう内容になっているのか。

それと、地域振興基金というのがありますが、現金のほかに有価証券というのが3億3,900万円あるということでございますが、これはどのような形であるのか。その下の収入印紙等購買基金・印紙等というのがありますけれども、76万8,000円、あると。奨学基金が、現金のほかに有価証券として3億3,000万円あるということなんですが、この現金のほかのやつはどのような扱いになっているのか、管理内容について説明いただきたいなというふうに思います。

そこで、これは突拍子もない話だというふうに思われるかもしれませんが、私が平成元年のころだというふうに思うんですけども、鉄工所をやられている明賀屋さんというのがありますよね。そこ出身の佐藤慶二さんという方がおまして、当時、5,000万円寄附してくれるということだったんですけども、その方がお亡くなりになって、個人の意思ということで役場のほうが連絡をとって訪ねていったらば、じゃ、お父さんの約束じゃしょうがないということで、1,000万円、市のほうに寄附していただきました。その理由は、毘沙門山というのが烏山庁舎の上のほうにあるんですけども、かつてそこに展望台があったということで、私、お金を寄附するから、ぜひそれを再建してくれというようなことで寄附をされたわけなんです。我々町議会議員にも、こんなお城風の展望台はいかがでしょうかという図面まで各議員に配ったんです。それをつくるのに幾らかかるんだといたら、3,700万円とかいう金額が出まして、1,000万円しかもらわないのに3,700万円かけてどうするんだという話で、もう少し見直せといたつきり約30年になっているんですけども、その1,000万円は今、どこにあるのか御回答いただきたいと。議員の中で、私だけが生き証人なんで、よろしく願いいたします。

今度、4つ目の質問でございますが、奨学基金です。これは、先ほどの奨学金がありまして、銀行預金のほかに有価証券というのがありまして、ことしの内訳を見ますと、5,530万円ですか、奨学金の支給状況、行財政報告書の212ページですね、ここで540万円支給しております。この有価証券のほうの利息があるのか、運用金を利用して、それが年間に530万円出たと。それを、奨学金としてこのように支給したという理解でいいのかどうか。したがって、預金も有価証券の額も下がらないということで運用されているのかどうか、その点について説明をお願いしたいなというふうに思います。

それと、介護の問題でございますが、県内の中核病院とか診療所ですね、その患者さんの診療情報をネットワークで共有できる連携が、とちまるネットということで運用が開始されて5年目ということで、県内1万8,700人の方が利用されていると、こういうことでございます。そのほかに、医師とか看護師が会員制の交流サイト、SNSを使って情報交換をして、もちろん患者さんの了解のもとに、いわゆる医療介護の連携をICTで進めているという情報がありますが、本市では、そういうようなとちまるネット、あるいは医療機関とかいろんな施設ですね、そことの連携がどう図られているのか。那須塩原市では、大田原市と那須町の3市町で、那須地区在宅医療介護連絡支援センターというのをつくって、そして国の在宅医療・介護連携推進事業の一環として、地域の高齢者の医療と介護を一体的に提供する支援とか、医療介護の連携コーディネーターとして2名を常駐させるというようなことで、その相談業務に応じているというような話が報道されておりますけれども、本市においては、医療と介護、特に

在宅医療と介護ですか、その辺の連携を、いわゆる医療機関とかそういう施設とか、あるいは行政とか、そういうのがどのような体制のもとに展開されているのか、説明をいただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 水上税務課長。

○税務課長（水上和明） 収入未済、不納欠損等に関しましては、一覧表のほうを御用意させていただきますましてお渡ししたいと思います。

決算書の329ページ、介護保険料の収入未済のマイナスということですが、これは調停額に対して収入額がこの分だけふえてしまったということで、介護保険料に関しましては、年金の年税額が18万円以上の方は年金から差し引かれるということで、特別徴収ということになってございますが、所得の更正等がございまして、それで収入額がふえた分となります。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） 行財政報告書213ページ、通学補助の件から駅前のバス停の話になりましたので、私のほうからお答えいたします。

よく現場を確認し、関係機関、観光協会、JR、あとコミュニティバスは那珂川町ですので、協議して前向きに改善できるように努力したいと思います。

○議長（沼田邦彦） 滝田会計課長。

○会計課長（滝田勝幸） 監査委員の意見書にありました基金の運用関係で、財政調整基金で地方債1,000万円、現金のほかに地方債ということでありましたものを、こちらのとちぎ未来債ということで平成32年12月2日までの満期の地方債となっております。率については、年率0.12%です。

あと、地域振興基金です。こちらについても、現金のほかに国債ということで3億3,900万円、こちらは平成32年3月20日満期で、0.1%の利率で、定期のほかに国債で運用しております。

あと、奨学基金につきまして、こちら、現金のほかに3億3,000万円、申しわけございません、こちら、種別国債となっておりますが、こちらは共同発行地方債というものとなっております。こちらにつきましては、10年の地方債となっております、平成39年12月24日というものとなっております。こちら、以前は国債という形で運用しておりまして、以前は1.9%の利率のものでございましたが、満期を迎えまして、こちら、満期の後新たに購入しまして、低金利の時代ですので、0.21%の利率の地方債となっております。こちらについて、年間約69万3,000円の利息となっておりますので、奨学基金の払い出しよりか

なり少ない利息となっております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） 基金の中で、土地開発基金の土地の部分について御説明申し上げます。

土地につきましては、6,157万1,000円、面積で3,159平米につきましては、JR烏山駅前の多目的広場と言われるところの広場の部分を、今後の開発状況によりまして、開発方法等が決まれば一般会計で買い戻すという状況になってございます。

あと、平成元年のころの寄附の話は、私と副市長と福田総務課長しか知らないんだと思いますが、私も確かにその図面は見たことがあります。その当時、また全然若造だったころ、そういう話があったんだということで、何かの委員会を、役場の当時、つくって、それを見た覚えがあります。その1,000万円につきましては、当時の財政係長が受け入れの決裁文書をつくっておりまして、それが現在もまだ残っております。それを見ますところ、烏山町当時のふるさと創生基金に繰り入れしている、積んでいるということで、現金はそこに入れてあります。南那須町と烏山町の合併協議の段階において、ふるさと創生基金の取り扱い、その町で基金の状況が違いましたので、市になってどういう基金をつくろうという中で、ふるさと創生基金は地域福祉基金の1つとして統合というんですか、基金を統合しております。その中に入れておりますので、現在、地域福祉基金で残っている4億7,400万円の中の1,000万円はそれだというふうに、理論上言えます。

○議長（沼田邦彦） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） 奨学金の内訳でございしますが、基金の利子と基金からの繰入金でございします。

○議長（沼田邦彦） 稲葉健康福祉課長。

○健康福祉課長（稲葉節子） 私のほうからは、先ほど議員からとちまるネット、それからSNS関係の医療介護連携事業をどうしているかというお話でしたが、私なんかも入っているんですけども、保健師等何人か入っております。ただ、実際に使用するのは訪問看護ステーションやケアマネジャーさん等が個人の情報、今こんな状態です、ドクター、どうですかというような形でやりとりをしているので、そちらのほうが使っている率が高いかというふうに思います。

それから、在宅介護連携推進事業についてでございますけれども、こちらは、那須烏山市は南那須医師会と委託契約をしております、県のモデル事業で平成27年12月から開始しております、那須地区よりも早く取り組んでおりますので、研修会とか多職種の連携会議とか、

十分にやられているところであります。そのモデル事業が終わってからは、介護保険の特別会計のほうで委託契約金のほうを組んでおりまして、決算書の347ページですね、在宅医療・介護連携推進事業費として在宅医療のコーディネーターのほうの料金を支払いしている状況でございます。

○議長（沼田邦彦） 佐藤市民課長。

○市民課長（佐藤加代子） すいません、基金に戻って申しわけないんですけども、収入印紙等購買基金についてなんです、こちらはパスポートを発行する際に必要な栃木県の証紙と収入印紙を取り扱うことになったために、200万円の基金を設置しまして、その原資200万円で必要な証紙と収入印紙を購入いたしまして、それを今度、売ると現金が入ってきますので、また基金に組み入れるというような状況ですので、原資は常に200万円で、この基金についての利子については雑入で入れております。

○議長（沼田邦彦） 瀧田代表監査委員。

○代表監査委員（瀧田晴夫） 基金についてお答えいたします。

実は、私のほうで提出いたしました報告書の27ページですね。これで、奨学基金、これについて3億3,000万円、これにつきましては、地方債だったものを、私、チェック漏れでございます。国債は直していただきたいと思っております。これにつきましては、決算書の408ページに、この基金については書いてあったかと思っております。

○議長（沼田邦彦） 17番平塚議員。

○17番（平塚英教） 大体わかったんですが、まず、佐藤慶二さんの御遺族の方が寄附してくれた1,000万円でございますが、大体どこに入っているというようなことはわかりました。ただ、やはり寄附というのは指定寄附だというふうに私は受けとめております。したがって、毘沙門山に展望台を再建するという目的に沿って、それを利用していただくようお願いしたいなど、こんなふうに思います。

2つ目、奨学基金の問題でございますが、そうしますと、地方債の3億3,000万円の利用ということではなくて、それと現金のあわせた利子運用ということで、それでも数十万円ということでございますので、ここにあるように540万円のお金を失するというふうになりますと、現金のほうを取り崩してこれに充てているというような理解でよろしいのでしょうか。

そうすると、あと何年もたなくなっちゃうのかなというふうに思うんですが、その辺はどんなふうにお考えでしょうか。

その2点、もう1度確認をしておきたいなど、このように思います。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） 佐藤さんの寄附につきましては、確かに受け取って、その当

時、起案をした職員の起案文書の中にも、観光施設用途というふうな形では書いてあります。ただ、指定寄附金の場合だと、議会の議決をもらった上での寄附受け入れという形になるんですが、その当時は議会の議決は受けておりませんので、かしこまった言い方をすれば一般寄附金の扱いなんです。それにつきましては、寄附していただいた方の御意思も当然ありますので、将来的課題として受けとめていきたいと思っております。

あと、奨学基金の運用につきましては、議員御指摘のとおり、原資がなくなっていってしまいますので、そちらにつきましては有利な貯金なり国債なり地方債なりを活用しながらも、将来的には、その原資のあり方、また奨学金の交付の仕方というんですか、当然検討せざるを得ない時期はあるのかなと思っておりますが、今のところは、状況を見ながら判断していきたいというふうに思います。

○議長（沼田邦彦） 17番平塚議員。

○17番（平塚英教） これは意見でございますが、奨学基金については、烏山学生寮というのが東京にあったんです。それで多くの先人がそれを、土地をあけて学生寮にして、そこを先輩方が築立っていったということだったんですが、いろいろ時代があって、それをやめて、その跡地を売却して、この奨学基金の資金にしているということでございますので、そういう先輩方の、先人の心を大事にするということを含めて、この奨学基金の原資についてはいろいろと再検討されるように、なくならないように検討していただくことを求めまして、質問を終わります。

○議長（沼田邦彦） 16番高田議員。

○16番（高田悦男） 16番、高田悦男であります。最小の投資で最大の結果を出す、常に職員の皆さんは奮励努力の上、業務に取り組んでいることと理解をしております。それを踏まえて、若干の質疑を行います。

それではまず、行財政報告書132ページ6行目、親子農業体験の内容について、続いて196ページ、監理グループの中で、市道法面の樹木の伐採を進めていただきたいという要望をまず1点。

2点目が、さきの8月10日のゲリラ豪雨の際、福岡交差点において、自動車があそこで立ち往生してしましまして、私も、当時宇都宮から地元へ向かってる途中で、あの豪雨の際、大変な恐ろしい体験をしました。というのは、道路15センチぐらいの深さで水が仁井田バイパス方面から福岡交差点に向かって流れているんですね。車から出ることも、ドアをあけることもできない状態でした。あそこの交差点につきましては、素人が見てもおかしいと言っていたんです。台風を加えると、2回目の冠水というか、水が相当たまった状態になったということでもあります。その点について、どんな対応があるか、都市建設課長の答弁を求めたいと思

ます。

3番目が、221ページ、生涯学習課です。公民館、なすから英語塾の活動状況。次が、決算書159ページ、商工観光課、観光施設内芝管理業務及び伐採、草刈り清掃事業内容について説明を求めます。観光施設用地賃借料というのがあります。この説明もお願いいたします。

続いて、学校教育課の203ページ、施設管理委託料、支障木伐採業務、校庭内にある樹木と思われませんが、内容について説明を求めたいと思います。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 順番が逆になるかもしれませんが、行財政報告書221ページ、なすから英語塾の活動状況についてという御質問だったかと思います。それにつきましては、同じ行財政報告書の229ページ、グローバル人材育成事業（なすから英語塾）、㊦の前期コース、㊧の後期コースということで、それぞれの初級から観光ガイドクラスのクラス数と受講者数が入っております。こちらが平成29年度の活動実績になってございます。御参照いただきたいと思います。

なお、詳細なことについてももし疑問があれば、いつでも担当課のほうに来ていただければ御説明したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（沼田邦彦） 小原沢商工観光課長。

○商工観光課長（小原沢一幸） 私のほうでは、決算書の159ページ、観光施設内芝管理業務について説明します。こちらにつきましては、観光施設の芝管理業務をシルバー人材センター等に委託した費用となっております。

もう一つ、観光施設用地の賃借につきましては、6カ所観光施設として賃借している部分の支払いとなっております。国見の休憩所、毘沙門山、やすらぎの森、あと観光案内板として2カ所、あと龍門の滝周辺の公園、トイレ、駐車場の部分となっております。

以上になります。

○議長（沼田邦彦） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） それでは、決算書の203ページの支障木の伐採業務について申し上げます。

各学校では、毎日、各環境を見回るというようなことで、各学校で枯れてきた木など、そういったものを調査しまして、それを処分するというようなこととなります。今回については、烏山中学校の松の木ですか、ちょっと枯れてきたというようなこともありまして、その支障木を伐採したものでございます。

○議長（沼田邦彦） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） それでは、私は、行財政報告書の196ページ、一番上の監理グループの市道の路肩や法面等の草刈り等ということでお答えします。

こちら、今議会の初日の9月4日火曜日に、補正予算で道路維持管理費として三千万何がしかということが、予算が成立しましたので、そちらを使って適正に今後実施したいと思います。

ですから、今回補正予算に計上したということは、もうガソリンが切れたということで、今回、出させていただきました。

それとあと、福岡の交差点につきましては、皆さん御存じなんですが、あの交差点は主要地方道宇都宮－那須烏山線という栃木県が管理している県道の交差点であります。私が知っている限りのお答えになっちゃうと思うんですが、議員がおっしゃったのは8月10日の豪雨だと思うんですが、あの日は、皆さん御存じのように、気象庁のほうで、雨量計で計測できないのでレーダー解析で時間当たり140ミリという数字が出たと思うんですが、あそこの交差点につきましては、私が知っている限り、今言った冠水で排水が抜けないということと、形がおかしくなっているんじゃないのということは、この場をおかりして、全く別の問題ということで、これはその事件が起きましたその後、市長も交えまして交通安全協会、並びに所轄の那須烏山警察の交通課と烏山土木事務所と私どもで打ち合わせした結果、そのときに聞いたお話なんですが、ああいった形になったのは、いろんな事情がありましてああいう形になってしまったと。ですから、南側に旧道があんなに残っているのはおかしいとか、いろんな御意見があるんですが、それはいろんな事情でああいう形になったということと、交差点自体の構造につきましては、これを言ったらあれなんですけど、規格は満たしていると。ただ、あの当時は、これもまたお叱りを受けるんですが、想定外の雨量だということではなかったということです。時間がたてばはけたということです。

ただ、現実的に、議員おっしゃったようにああいったことが起きていますので、今できることは何かというと、排水関係の構造を見直して、例えばもうちょっと柵を大きくするとか、そういうことで烏山土木事務所のほうからお返事をいただいていますので、今後は、幾らかは改善になると思います。

ただ、先ほども言っているように、あの形というのは、いろんな事情があつてああいうふうになったということを知っています。

以上でございます。

○議長（沼田邦彦） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） 行財政報告書132ページの親子農業体験につきましては、同じ行財政報告書の153ページの未就園児等親子を対象とした事業の10月に実施されたものなんですが、具体的な内容につきましては、確認して、後ほどお答えしたいと思います。

○議長（沼田邦彦） 16番高田議員。

○16番（高田悦男） 小さいうちから土に親しむということは、大変私は重要なことだと思っています。特に食糧を大事にしようという考えが育つんです。自分でつくってみて初めて苦労がわかる、そういうふうに私は理解をしております。

ですから、農業ですか、家庭菜園とは違うんですね。やや大規模な農業ですか、それは何か考えるところがあれば答弁をいただきたいと思います。

続いて、監理グループの市道の法面なんですけど、実は市道でもかなり通学路の法面が、木が覆い被さって、場合によると、せっかくつけた防犯灯が、効果が薄れている、そういう場所があるんです。ぜひ、そういうところを中心に進めていただければなと思っています。

次に、福岡交差点につきましては、当初から、私も指摘をしておりました。設計図を見て、ちょっと低過ぎるんじゃないですか。もとの道路面より1メートルちょっと下がったと思います。したがって、あの辺の住宅の方は、大変急な坂になってしまったんです。大変不便な思いをしています。その辺が、素人なりに見ても失敗だったのかなと痛感しております。特に、用地交渉では13年をかけてやっと完成した福岡交差点でありますから、一層思いが強くいたします。あのときは、大川が溢水をして、結局配管があふれていて、その交差点からの排出管ですね、それがもう逆流ですね、早い話が。行くところがないんです。聞いたところによると、70ミリの雨にしか対応していないというんです。その倍の雨量が当時は観測されたようですから、本当に何回も言いますけど、あの県道が川のように流れたんです。その西側に水田がありますよね。あそこも一面水浸しです。どこが道だか田んぼだかわからない状態でした。したがって、そういうゲリラ豪雨にも対応できるぐらいの容量を計算していただければと思います。これは、県に別な方面からも要望したいと思います。

続いて、なすから英語塾なんですけど、ことしで4年目を迎えているかと思います。それで、塾生の中には、ティーチャーのかわりをしてもいいんじゃないかなというレベルの方がいると聞いております。したがって、ALTは必要なくなると思うんですが、この辺の考えはいかがでしょうか。ALTといってもただ1人ですよ、現在のなすから英語塾は。

続いて、商工観光課の観光施設は了解いたします。

学校教育課の支障木の伐採も了解いたします。

○議長（沼田邦彦） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） 先ほどの農業体験の関係で、お答え申し上げます。

これにつきましては、サツマイモの収穫ということで、こども館の建物の庭側のほうにちょっとした家庭菜園のようなものがありまして、そこに年度の初めのころに職員がサツマイモの苗等を植えたものを、この時期に、先ほど申し上げたお子さんとかお母さん方が、議員おっし

やったように、土に触れる機会ということで、そのようなことを実施しているということでございます。

○議長（沼田邦彦） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 今、なすから英語塾につきまして御提案をいただいたところでございますが、現在、なすから英語塾のほうは、指導員としてALTを2名配置をして、その指導のもとに、初級、中級についても、上級者についてもそうなんです、フリップというものを指導員のほうでつくってきて、それをもとにお話をしているというのが初級から中級、観光ガイドクラスについては、観光するための市の歴史ですとかいろんなもののお勉強も含めて、あと英会話の練習もしていると。

今御提案の、中には教師役もできる方もいるだろうということは、実際に上級コース、それから観光ガイドクラスの方については、人に教えることも可能であろうというものはございます。

ただ、今のALTさんというのは、そういったところで、ただ英語力ではなくて指導の実践の研修を受けてきていただいている方々でございます。ですので、実際、生徒さんの中で英語が堪能な方が教師になったらという御提案は大変貴重なものでございますし、これから自主的グループ等に移らせていただきたいというふうに考えているので、そういったときには、そういった方がリーダーになっていただいて、自主的に英会話の活動等をしていただけるように、こちらとしても支援助成をしていきたいなというふうには思います。

○議長（沼田邦彦） 小田倉都市建設課長。

○都市建設課長（小田倉 浩） 福岡交差点につきましては、これから細かいところも含めて、栃木県の烏山土木のほうに要望させていただきます。

あと、支障木につきましては、先ほど言ったように、今回補正予算で道路維持管理費として補正予算をいただいていますので、それを適正に執行したいと思います。

以上でございます。

○16番（高田悦男） 了解。

○議長（沼田邦彦） 15番中山議員。

○15番（中山五男） 最後になりましたが、あと30分だけ御辛抱いただきたいと思えます。

まず、市長向け、質問申し上げます。平成29年度決算の結果、予算総額120億5,500万円ほどありましたが、そのうち、前市長在職中に編成した予算は、当初予算から9月補正あわせて117億円ほどであります。川俣市長には、11月以降、3月まで、約4億円を増額補正しているわけであります。すなわち、予算のほとんどは前市長が編成したもので

あります。その予算の執行に当たりましては、前市長が在職中の10月までの7カ月間に執行されているものは予算の半額には満たなかったと、私は思っています。そのうち、予算編成の主なところは前市長で、それを執行されたのは川俣市長がほとんどではないかと思っております。

そこでお伺いします。平成29年度予算決算の中で、成果として特筆できるところと改善点等がありましたらお伺いをしたいと思います。さらに、今後の予算編成に当たりまして注視すべきところは何か、あわせてお伺いをいたします。

次に、教育長向け、質問を申し上げます。教育長に対しては2点ほど質問申し上げます。学力向上策の成果についてであります。平成28年度から学力向上策の一環としまして、スーパーティーチャー育成事業を実施しています。2年続けて福井県内の学校視察等を実施しているわけであります。さらに、非常勤講師、学校事務補助員等を配置しまして、教員の授業支援を実施しているところでもあります。そこで、本市小中学生の学力向上に効果が上がったのでしょうか。その実績についてお伺いします。

2点目を申し上げます。教育長の配下には、教育委員会には、学校教育課等3課があるわけです。そこでは、学力の向上、スポーツの振興、本市の文化振興策等に当たっておられますが、今回の決算を見まして、着実に成果が上がったのでしょうか。これは教育長の所感をお伺いいたします。

以上、お二人の答弁をいただきましてから、残り時間内で担当課長に質問を申し上げます。

○議長（沼田邦彦） 川俣市長。

○市長（川俣純子） 私自身、市長に就任してから5カ月の間だったので、確かに特筆すべきことは、私の中ではまだできていないと思っております。ただ、予算を編成させていただきましたので、そのときに、大分、この市の状態、そして予算、そして皆様の気持ちがいっぱい詰まっているものだなというのは、改めて考えさせていただきました。

今後、私としては、自分でも言った覚悟と実行をもってということなので、いろんな意味で統合に向けて働き、そして進めたいと思っております。昨年度までのことは、ほとんど私としての仕事はできていなかったと思います。状況をつなぎとめて維持していただくだけで、正直言って手一杯でした。それを少しずつ改善していくのがこれからかなと思っております。

実は、先ほどの福岡交差点のこともですが、県のほうには要望ももちろんしましたが、それ以上に、警察にも、もう少しこういう雨の降ったときには交通に担当に回っていただけないかと頼みにいきました。まず、つくるとなっても1年や2年ではできない可能性が高いので、いつまたあのような雨が降るかもわかりませんので、そういうところに頼みに行くということから、まずは始めていこうと。できることから進めていきたいなと思っております。

この予算に対しても決算に対しても、私自身がやったという実感はまだまだなく、申しわけないなと思っておりますが、来年度、そして再来年度に成果があらわれるよう努力していきたいと思っておりますので、議員初め皆さんのお知恵をかり頑張っていきたいと思っておりますので、中山議員、よろしく願いいたします。

○議長（沼田邦彦） 田代教育長。

○教育長（田代和義） それでは、2点、議員のほうから御質問ございましたのでお答えしたいと思います。

まず、学力向上策の成果についてということですが、昨年度ではなくて、実は3年目になります。平成28年度から実施させていただいております。議員から御指摘があったように、年に2回、小学校の先生グループと中学校の先生グループ、別々に1回ずつ、トータルで2回ということで実施しております。参加した先生方のその後の活動状況というのは、正直なところを申し上げますと、すばらしいものがあります。栃木県で実施している模擬テストと、県内で、現在、4年生、5年生は25市町の中で全ての教科がベスト5以内に入っております。それから、議員にこれまで何回も御心配いただきました全国学力状況調査につきましても、今年度は小学校は全教科全国平均を上回ることができました。中学校については、以前お話ししたように、ちょっと勉強の蓄積が長いほど急には成績が上がらないという部分がございますので、多少お時間いただきたいというふうに申し上げましたが、ことしも、残念ながら、全国平均には、肉薄はしてきているんですが、上回ることはできませんでした。広報紙のほうで、去年と同じように、○、◎、または△、▲で、残念ながら◎はなくて○ばかりと、あと△ということになっております。

これが成果かというのが、ちょっと私も、正直なところ、上回ったのは上回ったんですが、私の予想よりはというか、期待値よりは若干下回っているところがありますので、今後、さらに努力を重ねて、我々も学校の先生方の活動にバックアップ、支援体制を充実させていきたいというふうに考えております。

それから、私の教育委員会管轄で学校教育課、文化振興課、それから生涯学習課と3つございますけれども、それぞれいろんな行事、先ほど学校教育課の子供の成績の点についてはお話ししましたが、成果というとなら何によって成果とするかと、いろいろ問題もあるかと思いますが、生涯学習課におきましては、現在、いろんな市民のスポーツ大会、その他支援体制をとっておりますし、また2022年の国体に向けて、アーチェリー競技の準備を検討、共同歩調で進めているところでございます。

それから、文化振興課においては、山あげ祭、ユネスコ無形文化遺産登録を達成したとか、ことしは烏山城築城600年記念イベントを実施するとか、そういったイベントを成功させて

きたということが成果だというふうに言っているのかどうかちょっとわかりませんが、いずれにいたしましても、教育委員会の傘下に限らず、市長部局のそれぞれの課も、先ほど来何人かの議員の方々からおっしゃっていただきましたが、本当に頑張っておりますので、成果云々というのは、そういった頑張りが成果であろうと、そのように私は考えております。

ちょっとストレートな回答にはならないかもしれませんが、頑張っております。よろしくお願いたします。

○議長（沼田邦彦） 15番中山議員。

○15番（中山五男） 市長答弁には了解をいたしました。教育長、スーパーティーチャー事業、これは平成28年度からですよ、始まったのは。そのように、さっき、私も申したつもりなんです、それは着実に成果が上がっているように聞きました。

時間がないものですから、この教育長さんと市長さん向けの質問はこれで終わりにしまして、続きまして、各担当課長から何点かお伺いをしたいと思います。

まず、総合政策課長さん、石川課長さんにお伺いしたいんですが、これは全部行財政報告書からお伺いをいたします。38ページに基金がありますね。私は、この決算のは全部去年と比較しながら、1ページ、1ページずつめくって、去年とどう変わっているのか、これを確認しながら、この決算については自分なりに審査をしているわけなんです、それによりますと、去年まで境財産区の運営基金、去年は1億200万円ほど載っていましたが、ことし、載っていないですね。なぜことしは除いたのか。これは、どのようなときに基金を取り崩しできるのかなと思っているんです。もしできることなら、庁舎整備資金で、この半額でもいいから充当できないのかなと考えているわけでありませう。

2点目を申し上げます。40ページです。本市の標準財政規模というのは約83億円と、この表に記載されております。平成29年度は決算で約116億円、これは、ここ数年、少しずつは減っておりますが、まだまだ80億円台になんかは到達するもではあります。ことしも1.4倍になっておりますので、この辺のところ、削減に向けてどのように努力されているのか、課長にお伺いをいたします。

次、まちづくり課長さん、41ページなんです、まちづくり団体の支援に、12団体に対して1,900万円ほど補助金を交付しております。これ、まちづくり団体にかかわらず、まだまだ団体に市では補助金を交付しておりますが、補助金のこういった交付した後も継続して実績を上げているのか、私、疑問に思っているんです。こちら辺のところは、まず今回はまちづくりの課長さん、これは検証されているのかお伺いをしたいと思います。

デマンドと地域おこし協力隊については後にしたいと思います。

総務課長さんにお伺いします。51ページに、文言にこういうのがあります。職員の中で不

調者発生が絶えないってありますが、絶えないということです。午前中の同僚議員の質問に対しての課長さんの答弁では、カウンセリングを受けた職員数が94名とあって、私、聞き取って、これは間違いかどうかわかりません。そうしますと、全職員の37%ぐらいが、何らかの精神的不安定な状況でいるのかな、こんな状況で、果たしてまともな仕事ができるのかなと、私は考えているんですが、この原因は何なんでしょうか。私、部下との意思疎通を欠いているのではないかなと感じて思っているんですが、この辺のところについてお伺いをします。

次に、これは、去年は載っていたんです。EV車両用の急速充電施設、去年は載っていました。ことし、載っていないです。これ、利用状況はどうなんでしょう。あんまりよくないものだから、ことし、載せなかったんでしょうか。このことについてお伺いをします。

今度、こども課長さんにお伺いします。過日の新聞で、児童虐待が全国で13万3,000件とありました。本市の状況、どうなのか。あるとすれば、どのような対策をとっているのかについて簡単にお伺いしたいと思います。

あと、農政商工から上下水道課は、これは私の担当ですから後にします。

次に、学校教育課です。スクールバスの件をお伺いしようと思ったんですが、多分、これは岩附課長さん、市有バスの運行経費はここに含んでいないと思うんです。実際に、それ以外の業者とか賃金の額が1億900万円ではないかと思うんです。この1億900万円を、多分、今、スクールバスを利用している児童生徒は900人ぐらいじゃないかと思いますが、そうしますと、1人当たりの運行経費が12万2,000円ぐらいかかることになっているんです。正確なところはわかりません。よその市町村から比較して、かかり過ぎているのではないかな、こんなのでいいのかなどうか、ちょっと私も疑問を持っています。

次、生涯学習課長さん、2点お伺いします。231ページに、指定管理者関係、図書館があります。図書館の職員というのは、全部指定管理者のほうで、現在、配置されているわけなんです。職員の待遇に問題ないでしょうか。どうも、私も、ちょくちょく行くんですが、ちょっといまいちだな。課長さん、よその図書館行ってみてください。もっといいですよ。これは教育長も管轄なんですから、よその高根沢町の図書館なんか行きますと、ここでもずっと待遇いいですよ。いらっしゃいませ、御苦労さまです、ちゃんとそう言ってもら、非常に明るい、待遇がいいです。ここのところ、問題ないんでしょうか。

それと、233ページに指定管理者が主催する事業についてあります。24事業あります。きのうも図書館まつりがありまして、大変なにぎわいだったんです。それで、きのうは多分、市の職員も参加されたと思うんですが、こういった指定管理者が主催する事業に対して、市職員も参加して確認をしているのでしょうか。検証されているのか、この辺のところをお伺いしたいと思います。

次、文化振興課、249ページに、長者ヶ平の遺跡についてなんですが、保存のために、これまでには多額の費用をかけていますね。果たして、費用対効果が上がるのかなと思っているわけなんですが、これまでの実績と今後の課題だけでも結構ですから、これについてお伺いをしたいと思います。

次に、250ページに、郷土資料館です。ただいまは旧七合中学校の教室の一部を利用して資料を展示しているわけなんですが、あのままいつまでも置いては少々残念です、もったいないです。今後、いかに考えているのかお伺いをいたします。

次に、254ページにジオパーク事業がありますね。これは平成28年度は820万円、平成29年度は7,700万円ほどかけてあります。このジオパーク事業を、どうやってこれから実績残せるのか、私はちょっと疑問を持っています。担当者、お願いします。

それともう1件、最後に、256ページに、これは南大和久地内なんですが、荒川の左岸に横穴の古墳がありますね。この十二口の説明書、反対側、堤防に、ぜひ設置してもらいたいというんですが、多分、まだついていないと思います。ぜひ、これはひとつ私の要望です。これはお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 石川総合政策課長。

○総合政策課長（石川 浩） 行財政報告書38ページの基金です。境財産区の運営基金が載っていないということで、昨年度だったかどうか、私、記憶はないんですが、境財産区議会の基金につきましては、条例で、境財産区議会設置条例というのがありまして、対象議会が違いますので、こちらには載せていないということで御理解願いたいと思います。

また、次の標準財政規模に向けた努力ということでございますが、標準財政規模自体は、経常的な状態であるであろう一般財源の規模を一般的に示すものということでございますので、将来的な課題として、経常一般財源で運営できるのが一番理想だと思いますが、現時点ではそこまでいっていない。また、財源等も乏しいということから、各年の予算につきましては精査した予算を組んでいるということで、将来的な展望ということで御理解願いたいと思います。

○議長（沼田邦彦） 佐藤まちづくり課長。

○まちづくり課長（佐藤博樹） 行財政報告書41ページ、まちづくり団体支援というところからですが、43ページに書かれている那須烏山市野球連盟、烏山語りの会、これにつきましては平成29年度をもって補助終了となりました。平成30年度におきましても、それぞれの実績に書かれている事業は継続して行っております。烏山語りの会につきましては、8月20日に民話の里めぐり、また11月18日には烏山語りの会の発表会等は予定されているところでございます。

さらに、この事業に関しましては、平成18年から27年度までの事業ということで、全部で31団体が採択されたところでございます。そのうち、現在も活動している団体は21団体、その中で主なものを申し上げますと、新しく補助をいただいたところからいいますと、歌えバンバン、那須烏山市桜並木鉄道大作戦実行委員会、カッシーレ、それと横枕青年団、街に賑わいを興す会、那珂川流域悠遊会、野うさぎくらぶ、木須川を愛する会等々がございます。一番古いもので、生涯野球烏山スネークスという団体でございますが、それにつきましても、現在も積極的に活動していただいているところでございます。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 福田総務課長。

○総務課長（福田 守） 私のほうでは、不調者の関係でございますが、実質、昨年度は94名の方がカウンセリングを受けたということを説明しましたが、1人で何回も受けている方もいらっしゃいますし、あとは1人不調者が、ある程度具合悪そうな人が出た場合、周りの方も全部カウンセリングを受けていただいて、反響しないようにということと、あとは、新採用職員についても全員カウンセリングを受けてもらうということで、健常者もカウンセリングを受けてもらうような形をとっております。

実際、心身の不調等で傷病休暇等を取る方は年間3人前後になっております。期間も、いろいろな方がいますので、平均すると大体そのぐらいになるかなと思っております。

周りのサポート体制でございますが、昨年12月にストレスチェックの中で、アンケートで、上司のサポートがあるかというような項目がございまして、実際、それがやや少ないというような回答があったものが16%ほどございました。全体的には、上司等のサポートはできているのかと思いますが、それも少なくなるように今後努力していきたいと思っております。

あと、EVの施設の利用状況でございますが、大体毎月50回前後利用しておりまして、昨年度1年間では658回の利用状況でございました。

○議長（沼田邦彦） 神野こども課長。

○こども課長（神野久志） 行財政報告書130ページの、児童虐待の平成29年度の件数につきましては、本市では新規8件ということでありました。こちらの対応につきましては、保育園や小学校からそのような情報が入ったら、まずは当事者の確認ということで、当事者本人との面談や保護者等の面談、もちろん市だけではなくて、内容によりまして県北児童相談所と連携をとりながら、継続的に面接指導を行っております。必要がある場合、緊急性を要する場合は、県北児童相談所等の判断で一時的に入所措置ということもございます。

○議長（沼田邦彦） 岩附学校教育課長。

○学校教育課長（岩附利克） 行財政報告書の215ページになりますが、スクールバス運

行費でございますが、決算書の記載額につきましては、業者委託をしていますので、その費用と、バスが全体で28台ございまして、そのうち市のバスが12台、業者が16台ということになりますが、市のバス12台の管理費、燃料費とか管理費ですね、そういうのも含めて、またシルバー人材センター等に委託している費用、運転業務委託しているものについても、ここに含められた金額になっております。

ということで、あと、1人当たり割高になっていないかというような御質問でございますが、台数が多いのと、距離数も結構多いんです。2回往復して運行するというようなこともありますので、若干ほかの市から比べますと割高になっているのかなというふうに思います。

○議長（沼田邦彦） 柳田生涯学習課長。

○生涯学習課長（柳田啓之） 私のほうからは、行財政報告書231ページ、並びに233ページ、図書館業務についてお答えいたします。

図書館の職員の待遇につきまして、まだまだ議員のお目にかなっていないというところで、大変申しわけなく思っております。ただ、私どのほうには、待遇についての苦情というものは、今のところ幸い上がってきておりません。私のほうも、たまにはほかの図書館というか、高根沢町の図書館も利用はさせていただくことがございます。ただ、私が思うに、そう劣っているというふうには思っておりません。大体、市のほうの図書館は、私、課長ということでわかっているので、行くとそれなりになってしまうので、実際の素の様子というのはどうしてもわからないので、うちの者とか図書館利用、本の返却とかに行かせて、どうだったというふうな事情聴取をしたり、そういった方からの、別に本人というか、図書館に直接は言わないけれど、こういうことがあったというようなことを聞けば、その都度、館長のほうにお話をして是正させていただくように指導はしているところでございます。

それから、自主事業、24事業について、職員が行ってその実績どおりやっているかどうか監視をして検証をしているのかという御質問でございますが、大変申しわけございませんが、24事業全部に職員が行って実際検証しているかと言われますと、手が回らないところもございまして、全部には行っていないのが実情でございます。なるべく時間等の都合をつけて、行けるものについては私のほうで出るようにはしているものでございますが、全部には担当職員が行っているということにはございません。御了承願いたいと思います。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 糸井文化振興課長。

○文化振興課長（糸井美智子） 私のほうからは、まず、長者ヶ平官衙遺跡のことにつきまして御説明いたします。

費用対効果ということを御質問いただきましたが、まず、文化財そのものを保存していくた

めにはお金がかかるということで、私は認識しております。こちらにつきましては、平成27年度に一部公有地化、そして28年度に多目的広場の整備ということで目立ったお金がかかっております。

課題につきましては、本来であれば、ほぼほぼ公有地化を進めて、史跡公園的なものにしていくというのが本来だと思いますが、まだまだ地主さんとの調整とか、それからこちらのマンパワーとかお金のこととかということがありまして停滞しております。その辺をどのように進めていくかというのが課題かなと思っております。

次に、郷土資料館の展示方法という、郷土資料館のことですが、最大目標は、資料館の復活というか再建、これをするべきだというふうに担当は考えております。現在、大部分の資料につきましては旧七合中学校のほうに保管しております、一部、民具なんかにつきましては展示形態をとって並べてあります。小学校なんかの社会科の授業ですか、そちらのほうを御案内するという事になっております。ただ、こちら、私の勤務地と離れておりますので、その都度、予約をいただいて、プラスアルファの時間を割いていくこととなりますので、なかなか思うようには利用できないのかなというところは課題というふうに考えております。

今後は、この資料につきまして、本来もっと早くやろうと思っていたところですが、進んでいないところもあります。旧七合中学校のほう、今、可能なのは旧七合中学校を利用してということになりますので、そこを整理していきたいというふうに考えております。

それから、ジオパーク事業について実績を残せるかということでございますが、こちらにつきましては、先ほど回答もちょっとしましたけれども、今、人材育成とかというところを取り組んでおります。ですから、本当の基礎固めということで、ジオといいますと何億年の世界の話でございますので、長い目で応援していただければと思います。

それから、十二口の説明書の看板ということは、御要望ということですので、前向きに検討したいと思いますが、ただ、場所的に、堤防であったりとか地面が、向こうが民有地ということもありますので、ジオサイト自体を全体的な見直しも考えながら、その整備や看板設置について、管理方法等も検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長（沼田邦彦） 15番中山議員。

○15番（中山五男） 反論したいこと、再質問したいことが多々ありますが、残り1分20秒では到底進めませんので、これで終わりにします。ありがとうございました。

○議長（沼田邦彦） ほかに質疑はございませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（沼田邦彦） 質疑がないようですので、議長において議事を進行し、これで質疑を

打ち切ることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（沼田邦彦） 異議なしと認めます。よって、これで質疑を終決いたします。

お諮りいたします。ただいま上程中の認定第1号から認定第9号までについては所管の常任委員会に付託したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（沼田邦彦） 異議なしと認めます。よって、認定第1号 平成29年度那須烏山市一般会計決算の認定についてから認定第9号 平成29年度那須烏山市水道事業会計決算の認定についてまでは、それぞれ所管の常任委員会に付託します。

○議長（沼田邦彦） 以上で本日の日程は全部終了いたしました。次の本会議は9月19日午前10時に開きます。本日はこれで散会いたします。お疲れさまでございました。

〔午後 4時30分散会〕